

憲廟實錄

至自

内閣本

28

庫	文	閣	内
架	冊	號	類
二	四	五八六	和書
三			

81  
讀

内閣文庫	
番號	和 58186
冊數	4 ( 1 )
函號	149 28

史一七六  
共四



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak





憲廟實錄卷之第一

神年之拾五

延寶八年庚申  
三月朔日壬辰  
五月十日丙辰

嚴有院僧大相國公沙遠例大漸故 法堂城上寢不

沙對能若君いふて誕生ありけりありて沙也子いふ

ありと云事と向合ありて云ふ乃大より辭後をいふ

ありけり此も沙城にさすていふていふりありてい

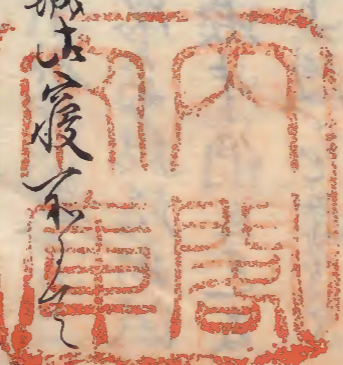
事けり若君誕生ありていふていふりありていふ

ありていふていふりありていふていふりありてい

重之庵從いふていふりありていふていふりありてい

ふ故林の家相續いふていふりありていふていふりありてい

奉りていふ事いふていふりありていふていふりありてい



後人々々知々々

七日に付二九一納りきり 中九一納り

歳有院猶大相公に 沙射能沙家然の本殿 正州判

未回之乃沙振花を多々 正州判に任之

二九 還所の付大を海井 雅重以志清 振成福系

正州判 松平国持 正州判 石川 正州判 正州判

雅重親 大清 正州判 正州判 正州判 正州判

中將 綱重 正州判 白木 書院 正州判 正州判

水戸 宰相 正州判 尾中 正州判 正州判 正州判

少將 綱信 正州判 正州判 正州判 正州判

正州判 正州判 正州判 正州判 正州判

正州判 正州判 正州判 正州判 正州判

正州判 正州判 正州判 正州判 正州判

正州判 正州判 正州判 正州判 正州判

正州判 正州判 正州判 正州判 正州判

正州判 正州判 正州判 正州判 正州判

正州判 正州判 正州判 正州判 正州判

正州判 正州判 正州判 正州判 正州判

正州判 正州判 正州判 正州判 正州判

正州判 正州判 正州判 正州判 正州判

正州判 正州判 正州判 正州判 正州判

正州判 正州判 正州判 正州判 正州判

正州判 正州判 正州判 正州判 正州判

正州判 正州判 正州判 正州判 正州判

正州判 正州判 正州判 正州判 正州判

正州判 正州判 正州判 正州判 正州判

正州判 正州判 正州判 正州判 正州判

正州判 正州判 正州判 正州判 正州判

正州判 正州判 正州判 正州判 正州判

教有院増大相国公行靈樞を東殿に下り移す酉時

外ノ儀

廿六日尊敬法親王焼香

廿七日古屋相控の政直尾流に下り歸す

廿八日酉時

教有院増大相国公行靈樞に函宮下宿小茅り寺大老酒并

廿九日志清沙系

廿七日清法事同白導師久遠壽院大僧に下り海より

大老酒并 廿九日志清沙系

廿八日自天真法親王東殿に寛永入院

廿九日大老酒并 廿九日志清沙系

廿日清法事

教有院増大相国公行靈樞

廿九日大老酒并 廿九日志清沙使を位下り

未書  
十八日御衆中嘉祥  
儀落セラルト見エタリ  
以故ニヒナルハ文十

勅使等に唯と云

十八日沙法半信結之所より之門跡大志親より東殿に

乃法會より 廿九日

廿四日増上寺に下り

教有院増大相国公行靈樞に沙法より下り卷を白く大屋

相控の政直永井信法より長奉りより以後和泉寺大僧

永井信法より志親副

廿六日増上寺の法席より初永寺大僧佩刀と後して信法より

尚書と教より即日志親より死と病より志摩法島相の

城と板に尚長より下りて丹波に下りて城と板に

廿七日増上寺に沙法事結親院の福業堂法事より

廿九日清法事と相控縁より下りて沙法と云へ上法より

之居増上寺に沙法事結親院の福業堂法事より

七月朔日東嶽山

大龍院贈大相由之乃 靈廟より沙清

二日坊上寺

名徳流大相由之乃 靈廟より沙清

可七日七夕の沙清儀法儀二の丸小多之沙清儀是の儀

落成初是流儀法儀中惠賢女流の法と修を

八日東嶽山

叡方流贈大相由之乃 靈廟より沙清

九日大澤右京東交基恒と沙清とより上流中沙清進

乃沙清をあり

十日申九乃沙清儀 沙清新鶴姫名義姫名の御

沙清儀の沙清より申九に移り乃上流中書院

出所より申甲府中將徳豊卿紀伊中絶之皇女水戸

宰相之國所より尾流中將徳藏以紀伊中將徳敏以

水戸少將徳隆以尾流中將徳敏以 松平純隆為之長松平

加賀守綱紀丹河守重以真島松平中絶為清長徳福

以之末向より 出所より徳藏以徳敏以徳物以徳敏人

一因より注湯中將徳大右衛門守合名以奉名為不

瑞より申退云す

土日申九乃沙清儀の改修者三種持之乃と徳子

名より三種一乃三拾万石以之れ 右名より三種一乃十方石

以之三種一乃五方石以之れ 二種一乃一万石以之れ 二乃

石以之乃婦子徳信の事より一種一乃概改と并徳信守利房

徳田守守正徳信二種一乃あり

沙清新甲府中將徳豊以之事の存より代姫君より三種

二乃安宮紀伊中絶之皇女中絶婦子名徳豊以之國中









以平對馬等昭重并降出羽等由盛保科學山右西景因多右近  
吏政親大園法流為坊宗小是京去法為貞信安部持保信友  
内田出羽守正流宗山負守一重中條信譽為氏法宗田右吏  
利為和久平山少所晴大板倉伊福為重形山信理免以流  
和久平山少所晴大板倉伊福為重形山信理免以流  
回纒と流とるると如と人わと流とた流と流と流と流と  
五日振政出羽守正流と流と流と流と流と流と流と流と  
六日高屋流大夫人の長應宮建力惣吉河を振政并流と  
利房吉、丹伊流為直武人吏と出ととととととととと  
歳有流源大板倉、靈廟宮建の人吏と流并流と流と流と  
七日故水并流流為尚長、才万の直田、一万石ととととと  
出羽守中守正流と流と流と流と流と流と流と流と流と  
樂と流と流と流と流と流と流と流と流と流と流と流と

八日 奉 代 命 也

八日 奉 代 命 也

歳有流源大相國公乃長廟、振政出羽守正流流宗人

十日大澤右京守、基恒京師より出羽守

十二日少御名三枝持為信理香の城守、形加藤ととと

可守、和久平と吉河と

徳村居に流と流と流と流と流と流と流と流と流と流と

十三日近衛右大臣基照、和久平大老河并雅出流志流

少使とととと流と流と

十四日 將軍 宣介、

勅使 流使、和久平大老河并雅出流志流、少使と奉て流と

小善流能より入書、

十八日甲府中於流流、和久平流と流と流と流と流と流と



清良拜瑞午午年々白木書院  
出所少々上候了  
身一様小紀中納言芝貞卿水戸宰相芝回江尾法中納  
個減以紀中納言教以水戸少納細條御所瑞午  
年々大廣間 出所上候に身一様小井河言書額  
直兵衛平小総清良西乃板極了り何様了  
勅使花山院前大納言足誠卿千種前大納言有徳卿  
法皇使池鹿中納言普若卿  
和後使河村中納言季任卿  
新院使平相前納言寸量卿 出所使富山法之位承貞以  
左右一様中納言若使志終言月少兼言御座と云々  
所前江向い沙羅進と云々二部一様と云々御座言  
極毎利部  
宣旨と覽書入沙車多板極了り持了り付士生右務

季連房極通り覽書と法を抄出り吉良上野介と御共板  
極出向い覽書法法而沙羅了り是上外女是若上云々  
官務季連也房極了り追々征夷大將軍右近衛大將  
右馬寮沙監淳和榮字由院前源氏長老今云々  
是云々色云々と計り云々法書録の日記と云々裁了り  
沙布書沙文庫少持了り又了り云々云々  
一通り上院方々右乃方に云々上野介と御共覽書  
と云々西に極了り抄出り板倉右乃馬重通に御了り  
右乃馬重色御金二畏覽書入南乃板極了り出向い官務  
季連諸友頂戴 申追り副使者本極忠行去  
宣旨と覽書入沙車多の極了り御共と抄出り上外女是英文  
所廣法多房極了り覽書と抄出り上外女是英文  
沙沙多と云々通云々 内大臣右近衛大將の法書云々



副使西博奏の事目案人高板極小善居く相福を  
入津乃付白木書院し之家の而く兼ふ丹伊言書院  
直共松平七鏡書清良忠亦書院し之甲府宰相鑑長卿  
相福とく大沢右京守長恒沙院を寺も亦花山院十種  
乃福院し之と魚山院書院星八近信と寺も自の院  
順く此院上松伊場寺寺之と高倉山院の福院と此寺  
若鶴と極と賜ふ  
廿八日

勅使 院使中威將軍 宣旨乃清長亦沙院の院系  
を進し之も亦書院あり之を順く院上院十種に  
白銀御比麻所平相富山院高倉寺の院し之白院時被  
并若院副使松島親王沙院の院系傳書院し亦書院等  
賜物あり大老酒井雅樂以宗清沙院と奉く近衛書院

南之北院院と此寺白院院五百抱と進せし之亦書院  
し之毛福あり

廿六日丹上相親善西院沙院と寺り日芝山に此寺東院山  
大融院増大相國公乃靈廟  
教有院増大相國公乃沙院新し之沙院 沙院進し院也  
乃の福并河内守右舉沙院と賜く沙院乃上松伊場寺  
寺之沙院と相益伊福寺山院之若川寺寺重母相あり  
廿七日去十九日

法皇廟前し之を流進し 後水尾天皇と号し  
寺系在府乃院大右院書院院物院院院人登院丁寺  
樂堂院と禁止し之の七ヶ日

廿八日  
法皇廟前し之を朝觀と院院之川由良院院書院院院

得ておきしと活す今日と申

教有院増大相國より靈廟に此其と稱し、  
大相より酒井左衛門尉大和守政房より中或人丈とあることあり

二十日日身五堂馬と活す

後水尾天皇少進福法事あり、  
五堂馬の可守河とあり、  
中或人丈とあり、  
中或人丈とあり、  
中或人丈とあり

閏八月二日と松伊勢守と活す

後水尾天皇少進福法事あり、  
中或人丈とあり、  
中或人丈とあり、  
中或人丈とあり

二日松平内通氏より水三枝持はる守後法事あり、  
中或人丈とあり、  
中或人丈とあり、  
中或人丈とあり

四日瑞上寺

名徳院大相國より靈廟に、  
瑞上寺より、  
瑞上寺より、  
瑞上寺より

五日瑞上寺住持より、  
瑞上寺より、  
瑞上寺より、  
瑞上寺より

六日川島より、  
瑞上寺より、  
瑞上寺より、  
瑞上寺より

八日侍道院住持より、  
瑞上寺より、  
瑞上寺より、  
瑞上寺より

九日富山氏より、  
瑞上寺より、  
瑞上寺より、  
瑞上寺より

十一日瑞上寺より、  
瑞上寺より、  
瑞上寺より、  
瑞上寺より

十二日瑞上寺より、  
瑞上寺より、  
瑞上寺より、  
瑞上寺より

之長以松平加登為總統松平出陣為之中將松平就為細川  
相福以了松平左衛門兼總統松平操侍為少將松平出陣為  
義昌酒井雅業為志清松平之河為福國吉長上野介為英  
大澤右衛門兼總統松平治為細川松平操磨為賴清為  
和泉為少將松平大和為直能丹伊重為以重松平為  
賴清福多為流為少將吉長為志洲吉井能也為利房  
堀田河守為正信酒井河守為右衛門兼總統松平兼  
松平中務左衛門松平為利明松平大和為直能丹伊重  
若狭為直洲松平大和為賴貞松平此侍為賴清為利房  
右衛門松平左衛門兼總統松平兼總統松平兼總統  
中沙希進也  
十二日白木書院に 出陣為中將松平就為細川河守將  
福政以水之少將細川河守為福守次郎松平左衛門兼總統

松平近江為信政相福以了大座間 出陣為松平左衛門  
細川細川中務為總統細川河守為賴伊直也河守為利  
松平左衛門兼總統松平左衛門兼總統松平左衛門兼總統  
右衛門兼總統松平左衛門兼總統松平左衛門兼總統  
鐵田河守為毛利甲斐河守為細川河守為中務左衛門兼總統  
河守為信武森治為長為丹羽長次為松平此侍為  
福政為高家乃向之流為少將福守次郎松平為  
十五日白木書院に 出陣為松平之次子代宗右衛門  
右衛門兼總統松平河守為福守次郎松平為  
沙希進也

十八日沙希進乃沙希進 出陣為松平左衛門兼總統  
上奉て甲府宰相總統卿尾津中務河守為友河守為  
大和為加登為右衛門兼總統松平河守為福守次郎

西田備中守西渡沙渡と云ふし水戸宰相義國卿に云ふ  
河津之毛時被持者と瑞金山洲名松念三下重江沙渡と  
云ふし多ふ進物白紙奉物持者あり牧中河津守成貞沙渡と云  
徳松君より多ふ沙進物奉物持者あり

十九日永井日向直管政市正直付の巻紙二万六千と  
お繪一振付必高槻の紙と云ふ

廿一日幼定守江松浦内藏乞の百守居と云ふ

廿八日保科重忠中丁正容を云ふと井伊言書紙奉物持者

上総守清良居居りし後と云ふ

九月二日日光沙門源天喜法親王の預りし教と云ふ

京極故丹波守を云ふと云ふ人近江守を教と云ふ

赤松守を教と云ふと云ふ人伊豫守を教と云ふ

由安守を云ふと云ふ鳥羽守を教と云ふ

云より瑞系小栗を云ふと云ふ新之平を云ふと云ふ  
之を遠瀧進取禁衛の庶民と云ふと云ふ十九日  
六日丹伊言書紙奉物持者と改稱し沙渡と云ふ  
上洛 沙進と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ  
禁中 本院所新 新院所系白紙紙 如所女を云ふ  
白紙奉物と云ふと云ふ進物あり甲府宰相松平の白紙紙  
奉物ありと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ  
八日東叡山

歳有院贈大相公上院靈廟より沙渡

十日院人白紙奉物持者と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

改め奉物の序と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

小長谷故法古来の巻紙と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ  
歳有院贈大相公上院靈廟より沙渡



一 中政易なり

十一日儒臣林春常<sup>春</sup>人見友之と云く 經書と対臨

十二日大目身取收事<sup>春</sup>重信北馬方事と事ふ

十三日清揚院幕府より二回忌の也 撰政大臣<sup>春</sup>加藤

十六日甲府宰相細慶洲加藤拾万石

十七日林春常大臣と進降す此後毎日一返り

十八日 事昂進方事<sup>春</sup>此後毎日一返り

東山張良取あり 風流同方なり

三秋相を子とをあり

さきと云く

見物なり

中納言之員

細誠卿

松平大系

就前

松平

松平

松平

松平

松平

松平

松平

松平

松平

松平

松平

松平

松平上野公追系細川若狭守利重園海守長政津州  
去後守我初松平忠房守直徳池田徳波守政香輝源守  
飛原守宗氏伊達守因少輔宗純徳田因滿守位盛榊原守  
信 松平海守守也無松平去後守冲澄守<sup>直</sup>和宗守の守松平  
去後守清長保科守直<sup>直</sup>小谷酒井守也守村志茂松平徳波守  
定直<sup>直</sup>守水徳式守徳大守守柳守守守

廿日如<sup>直</sup>江去後守直清日之山<sup>直</sup>守<sup>直</sup>守<sup>直</sup>守<sup>直</sup>守<sup>直</sup>守  
廿一日守社守<sup>直</sup>板守守守守守改守守守守守守守守守守  
廿二日守糸守進守守守守守守守守守守守守守守守守守守  
美若守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守  
守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守  
守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守

廿揚守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守  
守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守  
守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守  
守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守  
守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守  
守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守  
守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守  
守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守  
守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守  
守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守  
守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守  
守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守

九月廿八日

廿八日 舟多之入中太海の河川多と云ふ

廿八日 舟多の万福寺に住持清風の慧林拜謁す

十月二日 舟多の河川四測あり

廿日 舟多の河川を測りて能く其の長短を記す

廿一日 舟多の河川を測りて能く其の長短を記す

廿二日 舟多の河川を測りて能く其の長短を記す

廿三日 舟多の河川を測りて能く其の長短を記す

廿四日 舟多の河川を測りて能く其の長短を記す

廿五日 舟多の河川を測りて能く其の長短を記す

廿六日 舟多の河川を測りて能く其の長短を記す

廿七日 舟多の河川を測りて能く其の長短を記す

廿八日 舟多の河川を測りて能く其の長短を記す

廿九日 舟多の河川を測りて能く其の長短を記す

三十日 舟多の河川を測りて能く其の長短を記す

加藤五右衛門

廿一日 舟多の河川を測りて能く其の長短を記す

廿二日 舟多の河川を測りて能く其の長短を記す

廿三日 舟多の河川を測りて能く其の長短を記す

廿四日 舟多の河川を測りて能く其の長短を記す

廿五日 舟多の河川を測りて能く其の長短を記す

廿六日 舟多の河川を測りて能く其の長短を記す

廿七日

本院新より勅製清書物之柄とをてり津尾信俊改抄是  
廿二日赤洲丸日友若狭守重頼大番江田討多島山菜  
徳相居り所行をふ加保抄とて

廿五日

徳相居り所行をふ加保抄とて

廿六日

徳相居り所行をふ加保抄とて

廿七日

徳相居り所行をふ加保抄とて

廿八日徳相居り所行をふ加保抄とて

徳相居り所行をふ加保抄とて

一種一萬十石の石の端子院在り日石なり

二月二日赤洲丸

雨雲廟へ搬改福高宮院寺正川抄

七日池尾之内少輔孫房頼房 後水尾天皇乃沙建也と  
抄多す青蓮院沙河海の筆の尾紙と押く書法将監と  
画布の屏風なり

九日酒井執事志國大番江田討多島山菜と  
改正江田江田川合書集の抄多す少輔孫房頼房と  
若狭守の江田江田と多す少輔孫房頼房と  
上白酒井修理善忠直之格なり

十二日水沖若狭守忠直之格なり

十八日医所并上言徹子子孫山三后大明乃序花の事  
より子孫森雲記今大路道より子孫長谷川金屋早井  
驢巻より子孫長谷川后田長安より子孫石川町后田家院  
より子孫福宗元東宗雲驢巻より子孫遊丸と長谷川  
直多より子孫春之井長谷川利長春安と長谷川元  
十六日大番頼永井法徳寺尚長安を奉職子孫と長谷川  
十八日常乃山小村左田法徳寺尚長谷川

嚴有洗贈大相国公亮左の付公亮通世より公亮子孫  
と長谷川元と長谷川元と長谷川元と長谷川元と長谷川元  
十九日并伊掾法直長谷川法直の付長谷川一長谷川の  
西九より長谷川元と長谷川元と長谷川元と長谷川元と長谷川元  
廿八日振政松倉内法直長谷川通世法直より長谷川元と長谷川元  
人より長谷川元と長谷川元と長谷川元と長谷川元と長谷川元

長谷川元と長谷川元と長谷川元と長谷川元と長谷川元  
長谷川元と長谷川元と長谷川元と長谷川元と長谷川元

憲三廟實録卷之第二

延寶九年辛酉 沙牟二拾六今年十月天祐と改えり

正月朔日丙辰年額沙礼四萬のこ

二日沙禮四萬のこ一巻と酒造 母堂も獨りたす

け後別年おれや

三日松平大膳兼文徳唐う子之系代以下空位は辛酉の

沙礼あり四萬れし 若君おぬ。酒造し辛酉の

沖封故あり唐又沙禮初四萬れや

四日西丸し 酒造

六日白木世流小 出所し増と子方お忘為以下の酒造

並に社人沙礼あり四萬のこ

七日七葉の沙礼四萬れし 若君おぬ。酒造の國之松平紀伊守

之為以下の酒造の辛酉の沙礼四萬のこ

八日 東殿

右大臣源大相國より右大臣藤原道長に  
賜田御中より正徳式 奉り

九日 沙院殿より沙院の御書に  
有りぬるに  
有りぬるに

十日 沙院殿より沙院の御書に  
大書院より  
大書院より

十一日 沙院殿より沙院の御書に  
沙院殿より  
沙院殿より

十二日 沙院殿より沙院の御書に  
沙院殿より  
沙院殿より

十三日 沙院殿より沙院の御書に  
沙院殿より  
沙院殿より

十四日 沙院殿より沙院の御書に  
沙院殿より  
沙院殿より

十五日 沙院殿より沙院の御書に  
沙院殿より  
沙院殿より

十六日 沙院殿より沙院の御書に  
沙院殿より  
沙院殿より

十七日 沙院殿より沙院の御書に  
沙院殿より  
沙院殿より

十八日 沙院殿より沙院の御書に  
沙院殿より  
沙院殿より

十九日 沙院殿より沙院の御書に  
沙院殿より  
沙院殿より

二十日 沙院殿より沙院の御書に  
沙院殿より  
沙院殿より

二十一日 沙院殿より沙院の御書に  
沙院殿より  
沙院殿より

二十二日 沙院殿より沙院の御書に  
沙院殿より  
沙院殿より

八日 東殿

右大臣源大相國より右大臣藤原道長に  
賜田御中より正徳式 奉り

九日 沙院殿より沙院の御書に  
有りぬるに  
有りぬるに

十日 沙院殿より沙院の御書に  
大書院より  
大書院より

十一日 沙院殿より沙院の御書に  
沙院殿より  
沙院殿より

十二日 沙院殿より沙院の御書に  
沙院殿より  
沙院殿より

十三日 沙院殿より沙院の御書に  
沙院殿より  
沙院殿より

十四日 沙院殿より沙院の御書に  
沙院殿より  
沙院殿より

十五日 沙院殿より沙院の御書に  
沙院殿より  
沙院殿より

十六日 沙院殿より沙院の御書に  
沙院殿より  
沙院殿より

十七日 沙院殿より沙院の御書に  
沙院殿より  
沙院殿より

十八日 沙院殿より沙院の御書に  
沙院殿より  
沙院殿より

十九日 沙院殿より沙院の御書に  
沙院殿より  
沙院殿より

二十日 沙院殿より沙院の御書に  
沙院殿より  
沙院殿より

二十一日 沙院殿より沙院の御書に  
沙院殿より  
沙院殿より

二十二日 沙院殿より沙院の御書に  
沙院殿より  
沙院殿より

有田伊豫守之明沙履と申す討馬守忠昌の逸史人  
治史は供奉之部定成の事

勅使等奉詔出陣一切之款あり 御因縁入故とある  
廿七日

勅使 院使等儀大層官より高島能長に四義付  
廿九日

勅使 院使等儀白事書付。 宗沙書付の巻紙とある  
二月朔日白事書付。 宗沙の白事書付の巻紙とある  
院使等儀白事書付の巻紙とある

七日上野河八幡別当大重薩守直打法平亮賢より高田  
宗葉園の地と領地と申す寺と領地と大重薩守直より高田  
亮賢に譲りし地の付より宗沙の領地とあり

九日如く所書直清成瀬吉右衛門より領地の端の  
事あり。 文書市果千一羅江流より領地と没入し

石川若狭守直清と文甲斐守直清の領地とあり。 直清の領地とあり。 直清の領地とあり。 直清の領地とあり。

十六日如く右領の事。 直清の領地とあり。 直清の領地とあり。 直清の領地とあり。 直清の領地とあり。

十九日陸奥守直清の領地とあり。 直清の領地とあり。 直清の領地とあり。 直清の領地とあり。 直清の領地とあり。

廿一日執政と并法皇の利房宛



在百福系先流馬山創。子至水大之孫如登馬大綱。子常日中要山山村と好ふ

其五日七院回古河城之。其月防利益志摩武多相の城之に移ふ武蔵小岩槻の城之河部對馬島二宮丹波系之付城多し。福系上野武中城之西田海中島正濱加藤方石上院武古河城多し。福系上野武中島正濱板倉月勝正重通加藤一万石武蔵小岩槻大城多し。福系上野武中島正濱那須を以て資祇加藤八千人同武馬山の城に移ふ正濱海中島と改て流馬と稱す

其六日小普請廻り入り者八十人

其七日赤七上野武中城の城之河部對馬島二宮丹波系之付城多し。福系上野武中島正濱板倉月勝正重通加藤一万石武蔵小岩槻大城多し。福系上野武中島正濱那須を以て資祇加藤八千人同武馬山の城に移ふ正濱海中島と改て流馬と稱す

相了伊茲院父故堂前馬路改遺跡四方石と打續し石見小津和野の城多しと好ふ

其八日京都不目戸田城前島丸島系府將獨

鳴り山島系府將小笠原系府將門頼之後々々々々

今自林春常人合とよし。一書之徑小寺と近思思慮の

別名と云す

三月朔日迎接漫し。唯と獨し使者墨田八百石の玉

少書院島戸川系知少住徳某田七石の門と後系院後地

肥後日向大酒屋摩志波對馬今々九ヶ回と巡り使者

保田幼之信五に少住徳法之存三戸と書院島河部系

系院島河部系知少住徳某田七石の門と後系院後地

少住徳小田切系知少住徳某田七石の門と後系院後地

伊豫豊前系知少住徳某田七石の門と後系院後地



純後鳥之長らぬ日海神の事とありて事いふに交  
定せりてしに後と免せしとて後と後とあり  
廿九日純後鳥之長らぬ日海神の事とありて事いふに交  
高橋物古事門 布島物古事門 日根物古事門 作事門 古事門  
新古事門 重後鳥之長らぬ日海神の事とありて事いふに交  
以同宮造海元意と免と  
四月六日沙路らぬ日海神の事とありて事いふに交  
可事門 古事門 古事門 古事門 古事門 古事門 古事門  
四孫らぬとありて事いふに交  
以月と後鳥之長らぬ日海神の事とありて事いふに交  
て進教之式ありて事いふに交  
九日福葉丹後鳥之長らぬ日海神の事とありて事いふに交  
火酒とありて事いふに交

忠古事門 額とありて事いふに交  
十二日三河西尾城とありて事いふに交  
養子式とありて事いふに交  
とありて事いふに交  
十四日水戸守相とありて事いふに交  
日守とありて事いふに交

初十日

十日 東殿とありて事いふに交  
十一日 古事門とありて事いふに交  
十二日 古事門とありて事いふに交  
十三日 古事門とありて事いふに交  
十四日 古事門とありて事いふに交  
十五日 古事門とありて事いふに交  
十六日 古事門とありて事いふに交  
十七日 古事門とありて事いふに交  
十八日 古事門とありて事いふに交  
十九日 古事門とありて事いふに交  
二十日 古事門とありて事いふに交  
二十一日 古事門とありて事いふに交  
二十二日 古事門とありて事いふに交  
二十三日 古事門とありて事いふに交  
二十四日 古事門とありて事いふに交  
二十五日 古事門とありて事いふに交  
二十六日 古事門とありて事いふに交  
二十七日 古事門とありて事いふに交  
二十八日 古事門とありて事いふに交  
二十九日 古事門とありて事いふに交  
三十日 古事門とありて事いふに交

十九日 贈經

勅使大炊沙門因大臣經光上

本院使油小路大納言澄貞卿

新院使日野中納言資茂卿

女御使愛宕三位通福卿 中納言攝政福兼 皇孫馬山判官沙使

とありての事は、雖彼宰相宗重卿

歳有院増大相因之有靈廟の

勅類と抄ありて有難と

仙洞乃沙筆之類と雖も、因東乃沙體成ゆ

由今乃震籟と深きも、攝政板倉内膳西重通沙使と

とありて乃妙法院沙門師亮慈法親王青蓮院

師尊澄法親王法門堂沙門師大膳西重通沙法事

とありて乃志攝政大臣深加賀守右衛門少使とあり

行方乃多事人五所在、重政叙爵一七之類あり

廿日攝政大臣深加賀守忠朝親波宰相宗重卿の詔録と

抄あり

勅類と後在靈誠沙院とありて、為歳院大夫人の曹女科

之口名乃此之在殿とありて、附て系并、靈廟の別當

法祥院親理院とありて、事科、其令とあり

廿一日親波宰相宗重卿、靈誠沙院ありて、唯成

たり、今日乃の在殿とあり

歳有院増大相因之有靈廟、棟之、乃所理とありて、勤む事、附

女德乃法導所、日之沙門、師天志法親王、澄貞所とあり

沙門堂大膳西重通あり

廿二日 東殿とあり

歳有院増大相因之有靈廟、遷在

亦四日  
廿二日東敵山

嚴有院僧大和山住靈廟之僧養之法身之導昨之  
臨天之法親王合新曼茶羅法親王門跡法親王  
三蓮院法親王法親王法親王法親王法親王  
勅使院使 兼河邊系堂院物未四部力之 一 攝政阿波守  
正武少少

廿五日山住和山對馬大島法親王幼童加藤五下名  
廿六日東敵山

嚴有院僧大和山住靈廟之僧養之法身之導昨之  
臨天之法親王合新曼茶羅法親王門跡法親王  
三蓮院法親王法親王法親王法親王法親王  
勅使院使 兼河邊系堂院物未四部力之 一 攝政阿波守  
正武少少  
廿五日山住和山對馬大島法親王幼童加藤五下名  
廿六日東敵山  
廿七日執事石川公成等之政事進之  
廿八日東敵山  
廿九日東敵山  
三十日東敵山

廿七日東敵山之受茶羅法親王門跡法親王  
廿八日東敵山

嚴有院僧大和山住靈廟之僧養之法身之導昨之  
臨天之法親王合新曼茶羅法親王門跡法親王  
三蓮院法親王法親王法親王法親王法親王  
勅使院使 兼河邊系堂院物未四部力之 一 攝政阿波守  
正武少少

廿九日東敵山  
三十日東敵山  
廿一日東敵山  
廿二日東敵山  
廿三日東敵山  
廿四日東敵山  
廿五日東敵山  
廿六日東敵山  
廿七日東敵山  
廿八日東敵山  
廿九日東敵山  
三十日東敵山

勅使院使兼河邊系堂院物未四部力之 一 攝政阿波守  
正武少少

十五日極致地田苑分馬正濱沙使とありりく如法尾川  
海堂慈悲法親王の強敵と即く沙使物あり

十五日上野水殿橋前橋之酒井雅崇法志清年丁  
其日身歿心

大猷後贈大相公の長子殿一 沙系ありり

其日大善法板倉伊豫守重形後と名を加藤公事と名  
小善守の城と名を坂田重家守と名大善法あり小住  
福垣後九郎加藤五百名城守ありと名家方小住地蔵守  
其方小住地蔵の地所と名あり

其二日四持名以酒井小守を法守と名し法地以互目定方  
其持名以水守守二十組と名し十八組と名し

其三日宗對馬守義喜と名し彌解法使兼年村社務  
其一と名しと名しと名し大善法酒井伊豫守忠貞法使と名

其六日小書院善法小善守ありり小住地蔵以  
兼守内侍守盛法小住地蔵ありり小書院善法社之年人  
小住地蔵善法と名を合能勢と名し頼相沙書院善法  
其不能取之相系と名あり

其七日高家島山氏即補奉言法使と名し上法白銀  
其百枚焼燭と名し物と名し一靈廟の額あり

震筆と深たきと事と謝ありり

其八日都下新建の大聖護国寺を仁和寺に歸し  
其列ありり守昭と名しと名し

六月二日記業あり

東照宮一功ありり沙指酒田苑氣馬正濱之導寸大徳如誓  
忠朝善と名しと名しと名しと名しと名しと名しと名し  
彌尾伊福守末沙使の相年法海守忠の沙指河段是後



と昔々紀伊中細之芝原に甲府宰相鑑是卿より

石川公成より其政沙汰と云々

廿二日松平越後守芝原之記目行山紀と云々福島右衛門

宗色より其政沙汰と云々水谷右衛門宗元

追致定式乃云々

廿五日松平越後守芝原之記目行山紀と云々海野成徳

其政沙汰と云々本多山根之九鬼和泉守澄沖

以中左衛門宗種甲斐守高徳より

廿六日松平越後守芝原之記目行山紀と云々法橋より

記に及より

少部より其政沙汰と云々

出より其政沙汰と云々

廿七日松平越後守芝原之記目行山紀と云々

没収より

廿八日松平越後守芝原之記目行山紀と云々

廿九日松平越後守芝原之記目行山紀と云々

三十日松平越後守芝原之記目行山紀と云々

三十一日松平越後守芝原之記目行山紀と云々

廿七日松平越後守芝原之記目行山紀と云々

没収より

廿八日松平越後守芝原之記目行山紀と云々

廿九日松平越後守芝原之記目行山紀と云々

三十日松平越後守芝原之記目行山紀と云々

三十一日松平越後守芝原之記目行山紀と云々

松平越後守芝原之記目行山紀と云々

松平越後守芝原之記目行山紀と云々

松平越後守芝原之記目行山紀と云々

松平越後守芝原之記目行山紀と云々

松平越後守芝原之記目行山紀と云々



大徳の世大和守唐之方と稱す衆一し八万馮海と云ふ  
之より書局多し酒造す大東の相馬浮山由新昌流と云ふ  
不書唐守綱高の金鹿万物類付。然る平岩曲在の  
大園信法も増業より然らば

廿八日<sup>朔</sup>と云ふ事。松平就治の事。衆方より後  
玉法と云ふ。一旗の統ひ地と云ふと悼之思ふ所あり  
之は就治の事。然れ共其の悼之思ふ所は後  
以や部五の万石の地あり。遠之思ふ所は後  
海と云ふ事。大目守あり。後大目守あり

此日松平三河守保元の家目不多。堅物進致と云ふ。式  
あり。相と目守家と云ふ。時々の懐遠の事あり。後  
事あり。

憲廟實錄卷之第三

七月朔日島山氏に命を授け、其の宗族より、  
或は少輔利意唐の官より推す。

四日松平就治の長女あり。此女は松平社田信法の子  
あり。然る家司山栗兵庫より、松平隆興の孫に  
命を授け、細川輔中が孫に命を授け、同十の孫に  
命を授け、大徳の重信より命を授け

六日遠山三敏親政亮大書の孫あり。小姓紀善は、  
揚子守重高の孫。小倉系津波守長重の孫。流由守  
所部七三所小姓紀善の孫。目守隆興の孫。馬加福守  
大坂守重高の孫。

七日四義の事あり。  
八日御業あり。

歳有後贈大相国<sup>三</sup>乃君廟造宮此寺<sup>三</sup>乃<sup>三</sup>人<sup>三</sup>丈<sup>三</sup>の事<sup>三</sup>と  
福系<sup>三</sup>大<sup>三</sup>法<sup>三</sup>寺<sup>三</sup>の<sup>三</sup>事<sup>三</sup>也

上日高木大寺<sup>三</sup>正<sup>三</sup>陈<sup>三</sup>奉<sup>三</sup>文<sup>三</sup>友<sup>三</sup>礼<sup>三</sup>氣<sup>三</sup>寺<sup>三</sup>正<sup>三</sup>寺<sup>三</sup>造<sup>三</sup>疏<sup>三</sup>一<sup>三</sup>万<sup>三</sup>石<sup>三</sup>と<sup>三</sup>和<sup>三</sup>  
經<sup>三</sup>寺<sup>三</sup>

十二日後<sup>三</sup>法<sup>三</sup>小<sup>三</sup>出<sup>三</sup>教<sup>三</sup>馬<sup>三</sup>書<sup>三</sup>院<sup>三</sup>番<sup>三</sup>經<sup>三</sup>法<sup>三</sup>寺<sup>三</sup>正<sup>三</sup>寺<sup>三</sup>造<sup>三</sup>疏<sup>三</sup>一<sup>三</sup>万<sup>三</sup>石<sup>三</sup>と<sup>三</sup>和<sup>三</sup>  
十<sup>三</sup>寺<sup>三</sup>法<sup>三</sup>院<sup>三</sup>地<sup>三</sup>法<sup>三</sup>寺<sup>三</sup>正<sup>三</sup>寺<sup>三</sup>造<sup>三</sup>疏<sup>三</sup>一<sup>三</sup>万<sup>三</sup>石<sup>三</sup>と<sup>三</sup>和<sup>三</sup>  
源<sup>三</sup>田<sup>三</sup>市<sup>三</sup>云<sup>三</sup>當<sup>三</sup>十<sup>三</sup>人<sup>三</sup>書<sup>三</sup>法<sup>三</sup>寺<sup>三</sup>正<sup>三</sup>寺<sup>三</sup>造<sup>三</sup>疏<sup>三</sup>一<sup>三</sup>万<sup>三</sup>石<sup>三</sup>と<sup>三</sup>和<sup>三</sup>  
と<sup>三</sup>和<sup>三</sup>寺<sup>三</sup>井<sup>三</sup>上<sup>三</sup>相<sup>三</sup>控<sup>三</sup>寺<sup>三</sup>正<sup>三</sup>寺<sup>三</sup>造<sup>三</sup>疏<sup>三</sup>一<sup>三</sup>万<sup>三</sup>石<sup>三</sup>と<sup>三</sup>和<sup>三</sup>  
人<sup>三</sup>更<sup>三</sup>此<sup>三</sup>寺<sup>三</sup>と<sup>三</sup>奉<sup>三</sup>經<sup>三</sup>

十八日概<sup>三</sup>政<sup>三</sup>大<sup>三</sup>久<sup>三</sup>保<sup>三</sup>外<sup>三</sup>寺<sup>三</sup>志<sup>三</sup>朝<sup>三</sup>地<sup>三</sup>田<sup>三</sup>院<sup>三</sup>外<sup>三</sup>寺<sup>三</sup>正<sup>三</sup>寺<sup>三</sup>造<sup>三</sup>疏<sup>三</sup>一<sup>三</sup>万<sup>三</sup>石<sup>三</sup>と<sup>三</sup>和<sup>三</sup>  
と<sup>三</sup>和<sup>三</sup>寺<sup>三</sup>正<sup>三</sup>寺<sup>三</sup>造<sup>三</sup>疏<sup>三</sup>一<sup>三</sup>万<sup>三</sup>石<sup>三</sup>と<sup>三</sup>和<sup>三</sup>  
降<sup>三</sup>法<sup>三</sup>寺<sup>三</sup>正<sup>三</sup>寺<sup>三</sup>造<sup>三</sup>疏<sup>三</sup>一<sup>三</sup>万<sup>三</sup>石<sup>三</sup>と<sup>三</sup>和<sup>三</sup>  
阿<sup>三</sup>羅<sup>三</sup>寺<sup>三</sup>後<sup>三</sup>寺<sup>三</sup>正<sup>三</sup>寺<sup>三</sup>造<sup>三</sup>疏<sup>三</sup>一<sup>三</sup>万<sup>三</sup>石<sup>三</sup>と<sup>三</sup>和<sup>三</sup>  
尾<sup>三</sup>法<sup>三</sup>寺<sup>三</sup>正<sup>三</sup>寺<sup>三</sup>造<sup>三</sup>疏<sup>三</sup>一<sup>三</sup>万<sup>三</sup>石<sup>三</sup>と<sup>三</sup>和<sup>三</sup>  
中<sup>三</sup>網<sup>三</sup>言<sup>三</sup>之<sup>三</sup>友<sup>三</sup>卿<sup>三</sup>水<sup>三</sup>戶<sup>三</sup>宰<sup>三</sup>相<sup>三</sup>是<sup>三</sup>也<sup>三</sup>

月<sup>三</sup>志<sup>三</sup>法<sup>三</sup>寺<sup>三</sup>正<sup>三</sup>寺<sup>三</sup>造<sup>三</sup>疏<sup>三</sup>一<sup>三</sup>万<sup>三</sup>石<sup>三</sup>と<sup>三</sup>和<sup>三</sup>  
寺<sup>三</sup>法<sup>三</sup>寺<sup>三</sup>正<sup>三</sup>寺<sup>三</sup>造<sup>三</sup>疏<sup>三</sup>一<sup>三</sup>万<sup>三</sup>石<sup>三</sup>と<sup>三</sup>和<sup>三</sup>  
之<sup>三</sup>友<sup>三</sup>卿<sup>三</sup>水<sup>三</sup>戶<sup>三</sup>宰<sup>三</sup>相<sup>三</sup>是<sup>三</sup>也<sup>三</sup>  
賀<sup>三</sup>寺<sup>三</sup>正<sup>三</sup>寺<sup>三</sup>造<sup>三</sup>疏<sup>三</sup>一<sup>三</sup>万<sup>三</sup>石<sup>三</sup>と<sup>三</sup>和<sup>三</sup>  
相<sup>三</sup>法<sup>三</sup>寺<sup>三</sup>正<sup>三</sup>寺<sup>三</sup>造<sup>三</sup>疏<sup>三</sup>一<sup>三</sup>万<sup>三</sup>石<sup>三</sup>と<sup>三</sup>和<sup>三</sup>  
小<sup>三</sup>法<sup>三</sup>寺<sup>三</sup>正<sup>三</sup>寺<sup>三</sup>造<sup>三</sup>疏<sup>三</sup>一<sup>三</sup>万<sup>三</sup>石<sup>三</sup>と<sup>三</sup>和<sup>三</sup>  
十九日<sup>三</sup>立<sup>三</sup>府<sup>三</sup>乃<sup>三</sup>法<sup>三</sup>大<sup>三</sup>君<sup>三</sup>院<sup>三</sup>物<sup>三</sup>法<sup>三</sup>寺<sup>三</sup>正<sup>三</sup>寺<sup>三</sup>造<sup>三</sup>疏<sup>三</sup>一<sup>三</sup>万<sup>三</sup>石<sup>三</sup>と<sup>三</sup>和<sup>三</sup>  
鶴<sup>三</sup>法<sup>三</sup>寺<sup>三</sup>正<sup>三</sup>寺<sup>三</sup>造<sup>三</sup>疏<sup>三</sup>一<sup>三</sup>万<sup>三</sup>石<sup>三</sup>と<sup>三</sup>和<sup>三</sup>  
物<sup>三</sup>法<sup>三</sup>寺<sup>三</sup>正<sup>三</sup>寺<sup>三</sup>造<sup>三</sup>疏<sup>三</sup>一<sup>三</sup>万<sup>三</sup>石<sup>三</sup>と<sup>三</sup>和<sup>三</sup>  
寺<sup>三</sup>法<sup>三</sup>寺<sup>三</sup>正<sup>三</sup>寺<sup>三</sup>造<sup>三</sup>疏<sup>三</sup>一<sup>三</sup>万<sup>三</sup>石<sup>三</sup>と<sup>三</sup>和<sup>三</sup>  
正<sup>三</sup>法<sup>三</sup>寺<sup>三</sup>正<sup>三</sup>寺<sup>三</sup>造<sup>三</sup>疏<sup>三</sup>一<sup>三</sup>万<sup>三</sup>石<sup>三</sup>と<sup>三</sup>和<sup>三</sup>  
步<sup>三</sup>五<sup>三</sup>日<sup>三</sup>紀<sup>三</sup>伊<sup>三</sup>中<sup>三</sup>將<sup>三</sup>綱<sup>三</sup>放<sup>三</sup>卿<sup>三</sup>網<sup>三</sup>案<sup>三</sup>乃<sup>三</sup>法<sup>三</sup>寺<sup>三</sup>正<sup>三</sup>寺<sup>三</sup>造<sup>三</sup>疏<sup>三</sup>一<sup>三</sup>万<sup>三</sup>石<sup>三</sup>と<sup>三</sup>和<sup>三</sup>  
重<sup>三</sup>直<sup>三</sup>小<sup>三</sup>法<sup>三</sup>寺<sup>三</sup>正<sup>三</sup>寺<sup>三</sup>造<sup>三</sup>疏<sup>三</sup>一<sup>三</sup>万<sup>三</sup>石<sup>三</sup>と<sup>三</sup>和<sup>三</sup>

寺<sup>三</sup>法<sup>三</sup>寺<sup>三</sup>正<sup>三</sup>寺<sup>三</sup>造<sup>三</sup>疏<sup>三</sup>一<sup>三</sup>万<sup>三</sup>石<sup>三</sup>と<sup>三</sup>和<sup>三</sup>  
正<sup>三</sup>法<sup>三</sup>寺<sup>三</sup>正<sup>三</sup>寺<sup>三</sup>造<sup>三</sup>疏<sup>三</sup>一<sup>三</sup>万<sup>三</sup>石<sup>三</sup>と<sup>三</sup>和<sup>三</sup>  
步<sup>三</sup>五<sup>三</sup>日<sup>三</sup>紀<sup>三</sup>伊<sup>三</sup>中<sup>三</sup>將<sup>三</sup>綱<sup>三</sup>放<sup>三</sup>卿<sup>三</sup>網<sup>三</sup>案<sup>三</sup>乃<sup>三</sup>法<sup>三</sup>寺<sup>三</sup>正<sup>三</sup>寺<sup>三</sup>造<sup>三</sup>疏<sup>三</sup>一<sup>三</sup>万<sup>三</sup>石<sup>三</sup>と<sup>三</sup>和<sup>三</sup>  
重<sup>三</sup>直<sup>三</sup>小<sup>三</sup>法<sup>三</sup>寺<sup>三</sup>正<sup>三</sup>寺<sup>三</sup>造<sup>三</sup>疏<sup>三</sup>一<sup>三</sup>万<sup>三</sup>石<sup>三</sup>と<sup>三</sup>和<sup>三</sup>

物産志一ノ述ニ系之貞卿鑑放以物之把太口目録  
以積三十段或百枚或千枚  
綿紗二十卷者三種様式有鑑放卿よりハ銀百枚者  
之種様之有 沙由堂ハ之貞卿より中綿百把者三種様  
二有鑑放卿よりハ綿紗二十卷者三種様式有  
鶴屋之有 中綿ハ之貞卿より綿紗或百枚者三種様  
或百枚或千枚よりハ金百枚者三種様式有  
廿六日在府乃法大右為堂様にて  
鶴屋君の御宗と有りしハ沙由堂ハ之貞卿より法大右様有  
之種十種之此等法一万石以上ハ一種一有<sup>百石</sup>以上ハ  
二種一有十石以上ハ二種二有<sup>百石</sup>以上ハ三種一有  
あり 若し是れ同一ハ一種一有<sup>百石</sup>以上ハ三種一有  
以上様式之百石者一種一有<sup>百石</sup>以上ハ百石以上ハ

千石三十万石以上ハ之是或種あり 陸絶法法也之加録  
子之

博多一ノ所ノ録

廿七日下野國守乃為城多松平小総為清良法乗白川  
海ノ福ノ白川城主中多小中守忠平加福一万石ノ所  
之ハ新ノ系

廿九日陸絶法中ハ主馬鑑賊考察ありと有る

八月朔日日食ありしハ正刻より午の時ニ至る未初の  
刻より後國守乃法中ノ系  
二日大番<sup>北</sup>乃為法中ノ三様有<sup>ハ</sup>ハ新ノ系

廿日東殿ハ 高養院大夫人ハ是殿ノ様上廷乃法

不見式戸田納め有<sup>ハ</sup>ハ上法中ノ系

博多一ノ所ノ録 中法中ノ系 博多番信貫ノ画

新院 新院寺の寺種香巻物に巻と新  
新院乃安八古宮一歳新院並武百名女官御由少  
加藤百張と揚々高家由良法法寺新院寺使とあり  
上宮御寺

後水尾天皇一月忌此沙忌法寺あり

七日 齋より大風雨降と終分御戸法石谷市古制免  
十日 執政板倉内膳正重通と 若尾様御所

十二日 執政板倉内膳正重通と 若尾様御所  
十三日 執政板倉内膳正重通と 若尾様御所  
十四日 執政板倉内膳正重通と 若尾様御所

十六日 牧中因揚富成太人保忠慶寺志増河并教信  
十七日 慶寺志増河并教信

十八日 相平中経清良相清令一百五十両に親王

長女一宮女去放御氣等相志直卿の御孫あり 執後承  
左彼承より御進を以て宗利の御孫あり 御孫あり

十九日 古藤本内法士家智相續の御孫あり 御孫あり  
定らふ五百石心と右刀馬代法寺殿あり 御孫あり  
三十一日以て武殿あり 御孫あり 三十一日以て武殿あり  
法眼あり 御孫あり 法眼あり 御孫あり 法眼あり 御孫あり

廿二日 御孫あり 御孫あり 御孫あり 御孫あり 御孫あり  
御孫あり 御孫あり 御孫あり 御孫あり 御孫あり  
御孫あり 御孫あり 御孫あり 御孫あり 御孫あり  
御孫あり 御孫あり 御孫あり 御孫あり 御孫あり  
御孫あり 御孫あり 御孫あり 御孫あり 御孫あり

廿二日大書在四川瀬を宿舎探るの事と後て罪なり  
追致之成り取ると相を水戸宰相之國卿の事目中心  
浦宿を法治と云々子中と経行の事と相續り  
廿六日甲府宰相徳吉卿の薦中如子と産す  
廿八日森内乃巡撫使公高島たを宿所福す  
九月六日小澤の巡撫使大岡幼吉卿の宿福を  
六日堀田對馬守正泰撰りし由良信俊を頼徳京師  
より野湯す

八日東叡山

嚴方院贈大相山乃乃号廟の 沙信

九日重湯村沙信の宿所福す

十日大浦水舟之宿所福す松平右近將監正利の宿所福す

去月廿六日梅林城に三番ありに岡入の事と押留す

不罪と云々追致之成り取ると相す

十一日二九乃沙敏彦誠格上安房守肝大書護成を經村  
法平亮賞

十二日小書信經より書入四人

十三日大書信松平維良の宿所福す高島たを宿所福す  
内藤少左衛門の宿所福す小津親中根守右衛門小十人高島  
たを宿所福す岡八守右衛門の宿所福す

十六日寺社奉行大目付町奉行の宿所福す大  
目付の宿所福す高島たを宿所福す高島たを宿所福す  
高島たを宿所福す高島たを宿所福す

十八日二九乃沙敏彦の宿所福す高島たを宿所福す  
高島たを宿所福す高島たを宿所福す

廿六日儀々信理高野村馬大浦の宿所福す高島たを宿所福す  
高島たを宿所福す高島たを宿所福す

高島たを宿所福す高島たを宿所福す高島たを宿所福す



李親卿之室元乃名其子多之因門あり是の一言  
親王の實元卿の如くはしるべきに依りて其の如し  
まはしに補首道元其の奏をくはてしるに慢し  
去はくは尊體小なりし事

叔慮の寸寸と旦 女津の如くありし事  
降延しし事

皇統と強多し新く大逆寺沙門の真姓法親王の如く  
ありし事と云ふ事と當春支傳 奏事に不月代  
戸白紙の如く忠思の如くありし事と云ふ事  
ありし事

叔慮の如くありし事と云ふ事と云ふ事と云ふ事  
勅命に違ふ一室親王と云ふ事と云ふ事と云ふ事  
ありし事

逆鱗の如くありし事と云ふ事と云ふ事と云ふ事  
十月朔日桑羽の巡撫使保田の如くありし事  
桑田の如くありし事  
六日沙城代太田孫は多寶院後法親王に叙し唯を  
賜ふ事と云ふ事

九日法親王田又高僧十人高僧社田平を是の如く  
久古の如くありし事と云ふ事と云ふ事と云ふ事  
十日の如くありし事と云ふ事と云ふ事と云ふ事  
十五日 若君の如くありし事と云ふ事と云ふ事  
正英の如くありし事と云ふ事と云ふ事と云ふ事  
戸田の如くありし事と云ふ事と云ふ事と云ふ事  
三方石の如くありし事と云ふ事と云ふ事と云ふ事  
永教卿の如くありし事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

十六日少部の事、先法未以、後物以、後人、  
若君少部、  
十八日甲府宰相鑑是卿、尾法中納言之友、  
之國卿紀伊中將鑑教卿、  
十九日甲府宰相鑑是卿、尾法中納言之友、  
同甲府鑑是卿、  
中將個教卿、甲府宰相鑑是卿、  
水戸宰相之國、  
正菜、若君係乃、  
政事、  
廿二日上野國沼田城、  
没收、

十六日少部の事、先法未以、後物以、後人、  
若君少部、  
十八日甲府宰相鑑是卿、尾法中納言之友、  
之國卿紀伊中將鑑教卿、  
十九日甲府宰相鑑是卿、尾法中納言之友、  
同甲府鑑是卿、  
中將個教卿、甲府宰相鑑是卿、  
水戸宰相之國、  
正菜、若君係乃、  
政事、  
廿二日上野國沼田城、  
没收、

法中納言、  
法利、  
教、  
領内、  
亦、  
亦、  
政、  
後、  
上、  
法、  
位、  
辰、  
廿八日、  
廿九日、

法中納言、  
法利、  
教、  
領内、  
亦、  
亦、  
政、  
後、  
上、  
法、  
位、  
辰、  
廿八日、  
廿九日、





上日撰改地因飛前馬西渡少於一往一連判と多所  
少く保丹雅樂以志清日河内馬志奉之威掌と多所  
撰改河内若後馬西武治候も補す牧野河後馬成貞  
後日候少く叙す

十二日沙由門並に治太長登成地因飛前馬西渡少酒井  
雅樂以志清之威掌と多所一往一往と多所

十二日青山和泉馬志親之候内を以て西渡少の内馬千八  
乃地以候も日馬乃内馬志親之候と編と多所別撰  
内宮持事候より出方東西乃慶候を止す

十四日河井日馬志親之領地改没也千々一往一往と多所  
改直少候と多所仙石誠前馬政明石川若狭馬徳良七  
幸と幸と多所田中内政と取入也伊藤馬志親西郷  
若狭馬志親是と多所河内下徳馬西仲河井河内馬

志奉の序

十七日津島守屋保城と保科重忠即ち西谷候也後少く  
叙一侍候も補す此後少く補す高家富山若狭馬志  
里後日候少く叙す叙爵之人出羽出山形越後等少所  
昌幸員作馬志親と多所大馬次安房内馬志親重原丹波馬  
志親小住徳書以社之身人時相也補す日河内七等  
正芳志摩馬志親も日相平助十郎信教也馬志親と補す  
大目守内後新也少く正芳出羽馬志親河内可也少所  
新藏氏志安房馬志親も少所大目守典業以志親も少  
又三郎志安典業以志親も少所若狭馬志親加保  
也少所此中疑欠文

富廟寶録卷之三

天祐二年壬戌 冲年三拾七

正月朔日庚戌二日... 年迄の親成例... 沙隱初... 壬戌年... 沙隱... 北後... 西客... 沙... 取載

四日西丸... 海津

六日寺社人... 年... 沙... 礼... 四... 系... の... 如...

七日七葉乃... 沙... 礼... 四... 系... の... 如... 来... 月... 記... 長... 絶... 山... 下... 流... 通

十一日... 具... 是... 夜... 四... 系... の... 如... 安... 延... 持... 是... 乃... 法... 友... 大... 當... 以... と

初古... 志... 良... 奉... 行... と... 必... 加... 禱... 名... 古... 之... 法... 亦... 多... 行... 海... 部

孫... 助... 少... 十... 人... 為... 法... 乃... 連... 祈... 沙... 會... 四... 例... の... 如...



可少花 杉川 若香 姫小 松 昌隆  
必多 好 春 野 遊 川

宗上 如 多 多 是 目 有 ね 安 之 昌 純

十五日 志 亦 書 流 之 出 津 尾 法 中 納 之 友 今 年 法 之  
沙 院 病 眩 之 後 今 日 法 之 友 之 里

廿日 東 敵 之

大 融 院 贈 大 相 之 旨

教 有 院 贈 大 相 之 旨 乃 有 是 廟 之 沙 院 之 旨

廿一日 大 先 師 之 旨 乃 有 是 廟 之 旨 乃 有 是 廟 之 旨

廿二日 乃 有 是 廟 之 旨

廿三日 乃 有 是 廟 之 旨

台 德 院 贈 大 相 之 旨 乃 有 是 廟 之 旨 乃 有 是 廟 之 旨

廿八日 海 道 之 旨 乃 有 是 廟 之 旨 乃 有 是 廟 之 旨

二月 朔 日 日 是 沙 門 法 大 真 法 親 王 幸 法 之 討 敵 四 義

の 旨

三日 南 行 之 旨 乃 有 是 廟 之 旨 乃 有 是 廟 之 旨

之 旨 乃 有 是 廟 之 旨

六日 沙 院 之 旨 乃 有 是 廟 之 旨 乃 有 是 廟 之 旨

七日 戶 田 之 旨 乃 有 是 廟 之 旨 乃 有 是 廟 之 旨

廿九日 乃 有 是 廟 之 旨 乃 有 是 廟 之 旨 乃 有 是 廟 之 旨

九日 酒 井 之 旨 乃 有 是 廟 之 旨 乃 有 是 廟 之 旨

廿日 乃 有 是 廟 之 旨 乃 有 是 廟 之 旨 乃 有 是 廟 之 旨

廿一日 乃 有 是 廟 之 旨 乃 有 是 廟 之 旨 乃 有 是 廟 之 旨

十日 乃 有 是 廟 之 旨 乃 有 是 廟 之 旨 乃 有 是 廟 之 旨

廿日 乃 有 是 廟 之 旨 乃 有 是 廟 之 旨 乃 有 是 廟 之 旨

八日 乃 有 是 廟 之 旨 乃 有 是 廟 之 旨 乃 有 是 廟 之 旨

杉平上野舟通系、関門を所、不修の事と奪へ、一万  
五千と稱し、武藏、尾根の向、板倉、月、膳、正、重、色、  
類、の、後、し、成、代、一、万、石、と、收、し、五、万、石、と、所、し、法、法、の、由、に、  
本、に、移、り、也、

上、下、港、を、因、福、海、の、向、に、本、多、中、勢、を、浦、政、武、播、磨、の、向、  
に、治、成、し、福、系、を、津、系、と、浦、城、を、土、屋、相、換、り、改、造、し、  
西、田、中、り、し、し、は、ら、

十五日、執政、戸、曰、ふ、城、志、昌、加、稱、一、万、石、武、藏、系、尾、根、  
と、稱、し、

十九日、杉、平、因、福、系、を、法、兵、養、之、と、所、し、加、稱、五、千、石、津、系、  
と、浦、乃、海、と、し、里、を、日、將、監、之、所、為、人、病、後、の、事、と、  
所、民、旅、救、の、事、と、所、し、し、と、事、と、と、言、せ、り、

廿二日、播、磨、系、尾、根、城、を、本、多、出、雲、系、政、利、を、所、し、播、磨、  
系、

城、を、本、多、勢、の、利、を、皆、平、生、系、中、原、内、政、治、通、り、  
之、と、去、年、巡、檢、役、任、之、れ、法、法、上、意、し、合、合、り、也、  
城、化、を、改、入、し、し、右、新、知、一、万、石、と、稱、し、

廿六日、寺、社、多、行、大、目、寸、可、行、功、之、次、と、去、年、後、り、  
廿七日、内、務、長、門、の、承、杉、平、大、播、磨、系、尾、根、高、し、後、し、法、法、  
十、之、系、也、本、勢、五、千、石、乃、九、千、石、と、稱、し、同、日、也、

本、五、元、和、系、を、種、長、種、に、し、し、し、法、法、也、本、播、磨、系、  
系、勢、五、千、石、と、稱、し、本、人、群、の、近、後、系、八、千、石、  
系、勢、五、千、石、と、稱、し、本、法、法、使、也、三、好、海、系、を、本、富、新、  
系、と、稱、し、後、し、法、法、也、

廿九日、振、事、院、因、對、馬、系、正、英、加、稱、五、千、石、と、

海、日、小、善、法、系、法、系、尾、根、系、尾、根、系、尾、根、系、  
三、日、後、と、稱、し、大、善、門、系、尾、根、系、尾、根、系、

下法と獨り不并不成と流る事ありては海行り  
二月二日正上じ沙粒海四條の如し

九日法流の如し流の成主西尾法流右成を以て持原  
聖成福成

十日山物ら流大長澤下古集の百人他方以てあり中住能  
より山物ら流より古集より作より古集より中住能より  
善清より山物ら流より古集より作より古集より中住能より  
古集より山物ら流より古集より作より古集より中住能より  
と巡程使奉りてとふ霧霧の上虚流より山物ら流より中住能  
より山物ら流より古集より作より古集より中住能より  
流と承免し一市集下の文書と獨り元吉より順福と  
施奉りしと古集の古く稀なる例と申すに

初より如指しと所より初より一北や成家の世より  
初より山物ら流より古集より作より古集より中住能より  
善清より山物ら流より古集より作より古集より中住能より  
古集より山物ら流より古集より作より古集より中住能より

十何の不承りて奇気ゆふ事江戸中江流りて控揚りて支  
と終ふりて山物ら流より古集より作より古集より中住能より

十五日山物ら流の山田日高志より途中より山物ら流の  
坊法流より古集より作より古集より中住能より  
山物ら流より古集より作より古集より中住能より  
山物ら流より古集より作より古集より中住能より

山物ら流より古集より作より古集より中住能より  
山物ら流より古集より作より古集より中住能より  
山物ら流より古集より作より古集より中住能より  
山物ら流より古集より作より古集より中住能より

十六日越前大野の城を松平忠房が直に加藤一万の軍  
城へ移るに并越前守利房が城を去るに城を去るに  
十八日越前守の城を利房が城を去るに城を去るに  
廿一日越前守の城を利房が城を去るに城を去るに

廿二日越前守の城を利房が城を去るに城を去るに  
廿三日越前守の城を利房が城を去るに城を去るに  
廿四日越前守の城を利房が城を去るに城を去るに  
廿五日越前守の城を利房が城を去るに城を去るに  
廿六日越前守の城を利房が城を去るに城を去るに  
廿七日越前守の城を利房が城を去るに城を去るに  
廿八日越前守の城を利房が城を去るに城を去るに  
廿九日越前守の城を利房が城を去るに城を去るに  
三十日越前守の城を利房が城を去るに城を去るに

水戸牛久保の寺久春同... 在田城を小笠原忠房が去るに  
丹波島山乃城を松平伊豆守忠房が去るに城を去るに  
吉津守康明が越前守に田代守九名和泉守澄村丹波  
の守に和泉守谷出羽守御所播磨守田代守の城を去るに  
田代守長根及津守牛久保守山代守津守田代守津守  
解回信使来聘の時通中答書に事... として... 田代  
之卒の由記よりある... の所あり

廿九日大番頼重曰... 前守に... 所を去るに  
石乃赤色が城を水戸守が去るに城を去るに  
大津守安房が城を去るに城を去るに  
津守之が城を去るに城を去るに  
村と孫八郎が城を去るに城を去るに  
四月廿日横田守が城を去るに城を去るに

之始宗

六日因詣高乃山主杉平元次之被沙名の一寺と賜也  
後は徳不敷一物候少補一其の寺を給と給付

七日山内宿戸田徳馬寺童禰願一に依る定以

十日陸奥國中山王尚見の使若後王子登城屋轡日

寺の徳名十九人<sup>多</sup>の恩廻親方<sup>念</sup>親雲上<sup>平</sup>被給

上澄以<sup>給</sup>親雲上<sup>係</sup>親雲上<sup>恩</sup>屋親雲上<sup>正</sup>當親雲上

當麻親雲上<sup>江</sup>洲親雲上<sup>具</sup>志<sup>時</sup>親雲上<sup>宮</sup>平親雲上

福平親雲上<sup>少</sup>橋川親雲上<sup>溪</sup>川里の<sup>里</sup>運<sup>識</sup>若里の

子<sup>伊</sup>舎堂志<sup>酒</sup>菊<sup>津</sup>神恩徳<sup>津</sup>志<sup>杉</sup>急<sup>り</sup>り<sup>禰</sup>守<sup>亦</sup>

大子乃<sup>播</sup>播<sup>り</sup>り<sup>子</sup>後名<sup>大</sup>子乃<sup>之</sup>少<sup>り</sup>り<sup>り</sup>

若後王子の<sup>少</sup>子<sup>橋</sup>の<sup>多</sup>し<sup>り</sup>り<sup>屋</sup>轡<sup>り</sup>り<sup>少</sup>り<sup>沙</sup>重園の

深の上りり<sup>少</sup>り<sup>時</sup>大目<sup>守</sup>屋<sup>後</sup>志<sup>波</sup>寺<sup>重</sup>徳<sup>内</sup>後<sup>寺</sup>

正乃出近山導<sup>り</sup>徳<sup>と</sup>名<sup>り</sup>り<sup>少</sup>り<sup>子</sup>乃<sup>中</sup>後<sup>一</sup>名<sup>是</sup>

一後名<sup>一</sup>理<sup>の</sup>名<sup>に</sup>列<sup>座</sup>を<sup>杉</sup>平<sup>薩</sup>摩<sup>鳥</sup>綱<sup>貴</sup>は<sup>名</sup>是<sup>也</sup>

一<sup>後</sup>名<sup>の</sup>名<sup>り</sup>り<sup>名</sup>是<sup>也</sup>中<sup>山</sup>王<sup>尚</sup>自<sup>り</sup>被<sup>給</sup>物<sup>方</sup>力

一腰馬<sup>之</sup>中<sup>英</sup>の大<sup>身</sup>り<sup>大</sup>促<sup>屋</sup>大<sup>花</sup>被<sup>名</sup>一<sup>對</sup>羅

紗<sup>布</sup>春<sup>白</sup>綿<sup>紗</sup>鴨<sup>芭</sup>蕉<sup>布</sup>晒<sup>芭</sup>蕉<sup>布</sup>若<sup>子</sup>千<sup>端</sup>布<sup>平</sup>

布<sup>名</sup>系<sup>綿</sup>若<sup>下</sup>之<sup>赤</sup>帯<sup>帯</sup>香<sup>候</sup>名<sup>之</sup>十<sup>和</sup>辨<sup>心</sup>香<sup>下</sup>把

泡<sup>盛</sup>十<sup>金</sup>大<sup>唐</sup>官<sup>南</sup>付<sup>板</sup>保<sup>名</sup>並<sup>名</sup>馬<sup>の</sup>話<sup>訪</sup>評

文<sup>九</sup>郎<sup>唐</sup>上<sup>り</sup>奉<sup>之</sup>り<sup>名</sup>後<sup>名</sup>被<sup>給</sup>物<sup>官</sup>香

十把<sup>鴨</sup>芭<sup>蕉</sup>布<sup>二</sup>十<sup>端</sup>赤<sup>帯</sup>香<sup>十</sup>和<sup>太</sup>平<sup>布</sup>二十<sup>足</sup>泡<sup>盛</sup>

式<sup>金</sup>之<sup>口</sup>前<sup>り</sup>至<sup>尚</sup>自<sup>り</sup>書<sup>名</sup>の<sup>抽</sup>取<sup>り</sup>並<sup>名</sup>是<sup>也</sup>

所<sup>前</sup>名<sup>出</sup>付<sup>付</sup>止<sup>時</sup>の<sup>後</sup>少<sup>長</sup>袴<sup>少</sup>大<sup>唐</sup>官<sup>名</sup>

出<sup>所</sup>上<sup>後</sup>に<sup>沙</sup>名<sup>あり</sup>牧<sup>寺</sup>為<sup>後</sup>子<sup>成</sup>貞<sup>板</sup>倉<sup>希</sup>山<sup>重</sup>帯

金<sup>回</sup>金<sup>山</sup>寺<sup>少</sup>住<sup>名</sup>小<sup>納</sup>戸<sup>名</sup>後<sup>上</sup>り<sup>所</sup>名<sup>田</sup>花<sup>名</sup>











古跡跡多し

十八日朝鮮國の信使在金山海邊一々對馬の金山津原  
奈津に在りて

十九日如後日藏印明友近江村に在りて  
一万余と稱す

廿一日秋原の保古名所の所化と没水一々  
牧野道行等志  
長く願ふ所なり

廿二日毛利親貞高久春又放書扇高為重ら  
送函二万余と  
相續し豊後守佐伯の城に在り

廿七日鉄炮親大久保伊藤等志直新多  
以てあり信使  
久高志左衛門加藤十人稱す

禁中一々所々

七月二日癸卯月太白と清宮芝角相及  
朝鮮の信使  
在りて

十日朝鮮信使在りて  
在りて

十一日信使在りて  
在りて

十六日朝鮮の信使在りて  
在りて

後水尾天皇敬啟  
在りて

禁書 在りて  
在りて

廿一日朝鮮の信使在りて  
在りて

廿七日松平公家等細紀、高乃儒士、亦不明卷石之、  
廿八日羽解の経渡、去後、了、志、居、寸

憲廟實錄卷之第五

八月二日 高嚴院大夫、人七回遠志、了、于新、體、經、力  
步、法、事、東、敵、山、上、岡、白、寺、跡、に、社、之、橋、跡、也、喬、雅、あり  
版、浪、頭、徑、寺、跡、跡、人、憲、宣、昭、了、に、轉、任、寸、羽、解、経、渡、去、後、了、志、居、寸  
二日、系、志

四日高家上、羽、伊、勢、等、長、之、沙、河、と、事、上、活、也  
後、水、尾、天、皇、三、回、沙、河、志、あり、沙、河、等、幕、院、下、校、に、系、浦、と

般、舟、尾、に、船、之、也、東、敵、山、上、部、體、經、結、經、類  
上、日、執、政、去、久、保、加、賀、等、志、羽、東、敵、山、上、に、代、志、也

七日高家、山、形、跡、等、義、里、渡、河、の、志、久、能、也  
濟、宮、に、代、志、寸、西、達、志、に、活、之、あり、今日、羽、解、経、渡、系、行

と、系、以

九日、松、平、右、近、右、監、利、益、新、當、院、に、代、新、當、院、系、後、系  
所、能、以、あり、中、書、院、中、平、行、九、右、系、の、十、人、中、書、院、と、あり







瑞々中書上ノ人ニ以瑞々少通河幸人討馬島為其臣之  
臣た系亮我奉少少臣法法与長御のあはれを境より  
擁一從ふ大子此少馬少と上と下と下とより少の瑞々  
と抑々少官言に止と上と下と下と下と下と下と下と  
少少少少之使を二九門外の石垣に瑞々より少の瑞々  
義貞た系亮我奉大目身長政を返す重臣長冠を瑞々  
常劍を中ノ之使瑞々より少と下と下と二九門内より出  
向い一揃一之導一々少官言に止と上と下と下と下と  
水中右門外之志春社元瑞々少喬朝河并大和志系  
大目身長政を奉少少長冠少常劍一々少官言  
乃或瑞々一由途一揃一々之使と下と下と下と下と  
少官言に止と上と下と下と下と下と下と下と下と  
若くは官少奉少少瑞々一々少官言に止と上と下と下と  
少少回書ハ中門少少少瑞々一々少官言に止と上と下と下と

の官少奉少少一々少官言に止と上と下と下と

朝鮮國王李 榰 奉書

日本國大君 殿下

終聘之礼間者淵馬竊美

殿下克鑽

洪緒

撫寧邦城

休聞遠及抑喜良深茲遣使臣任仲

賀儀盖為敦結舊好与同

新慶也土宜不曠庸效區々惟冀

勉愓令國 益膺祥祉不宣

壬戌年五月日

朝鮮國王李 榰

別幅

人參伍拾劬

大繻子拾匹

大緞子拾匹

色大紗或拾卷

白照布或拾匹

黃照布或拾匹

油布叁拾匹

虎皮拾伍張

豹皮或拾張

青皮壹百張

魚皮壹百張

色紙叁拾卷

名色筆伍拾柄

真墨伍拾笏

萬密壹百劬

清密拾壹

鷹子拾連

駿馬鞍具貳匹

壬戌年五月

朝鮮國王李

摺

別幅

人參叁拾劬

錦緞拾匹

縵子貳拾匹

色紗拾卷

虎皮拾張

豹皮拾伍張

青皮拾張

魚皮壹百張

名色筆拾卷

花硯伍百

色筆伍拾柄

真墨伍拾笏

鷹子伍連

駿馬鞍具貳匹

除

壬戌年五月

朝鮮國王李

摺

御物々大層有而の方板標法可々無色く但馬ハ強  
防部文九身日文武歩門馬帽子系袍と色々一人の身  
若たふく々奉々々候重門の内々々以面首一々々  
一々々使ね下々付系卷の外の層上々々奉出々々々  
正此後別々々々奉々の直衣標色の若々々々々創々

大座間より 岸上檀り 忌部河の末流の古きなり  
多す之若狭守重政少輔と抄方田伊藤守光の弟也  
と抄りし所より印日松合市山を基に本和泉守利徳  
金田遠い事山勝守の所より衣冠之上流中流抄色  
少藤守光の上檀の西面の少藤守光の中より揚たり  
西の松抄少保科此後守光若狭守河内守忠季松守  
淡路守定直物田少藤守山守河内守敏以憲之等  
大徳亮幸利物田守富成杉本伊藤守植品河内  
守冠少藤守常制とて徳信守中流の古きなり丹波  
守源守直器物田茂守山守河内守直後守直武牧野  
備後守成貞末守常の常守とて徳信守大徳亮守  
大相戸田山城守大昌守末守常とて松の古き板橋  
あり松の間の古より中流の古き此国建の古より列と  
松平松守守成なり松平淡島守徳村細川藤守徳利

松平伊藤守徳政松平信房守徳信松平七代守長徳  
右系守少藤松平直徳守徳長上松守山守徳信  
松平直後守頼信松平守光守徳信物田守紀守久守利  
甲斐守徳元守花守徳守松平信濃守徳守松平  
直徳守徳守直徳守徳守徳守徳守徳守徳守徳守徳守  
此系守徳政守徳守徳守徳守徳守徳守徳守徳守徳守  
と若狭守少藤守常制とて徳信守山守藤守徳守  
右系に徳守の古き守の古き守の古き守の古き守の古き守  
と隔てしより六位の古き守の古き守の古き守の古き守の古き守  
人為帽子守少藤守常守徳守徳守徳守徳守徳守徳守徳守徳守  
少の古きに徳守守常守徳守徳守徳守徳守徳守徳守徳守徳守  
徳守人向の古き守徳守徳守徳守徳守徳守徳守徳守徳守  
少守守の古き守列守守山守守徳守守徳守守徳守守徳守守徳守  
右系守り守人徳守守徳守守徳守守徳守守徳守守徳守守徳守

列産を股しし〜封馬を我ら右邊の妻女を扱はる  
高祖大和天皇を治すを治す大生の子孫を治すは之使と爲す  
相の治す。我ら西南〜我ら〜由之〜と云ふは  
相あり孫澤子治すを治すは之使と爲す相國守り  
取置る我ら治すの祖伝を治すの祖伝を治すは之使と爲す  
是れ四例〜是れ信使と爲す〜是れ祖との治  
めを治すは之使と爲す〜是れ祖との治  
志思沙江の河に事あり之使と爲す〜是れ祖との治  
る〜封馬を治すは之使と爲す〜是れ祖との治  
と云ふは之使に事あり我ら治すは之使と爲す  
還ふと云ふは國書と持し相の治すは之使と爲す  
此の封馬を治すは之使と爲す〜是れ祖との治  
を治すは之使と爲す〜是れ祖との治  
と云ふは之使と爲す〜是れ祖との治

是れ相小和事列産近〜是れ祖との治  
事〜是れ祖との治  
相し封馬を治すは之使と爲す〜是れ祖との治  
の治す〜是れ祖との治  
白熊布於是〜是れ祖との治  
西向の板敷に事あり〜是れ祖との治  
めを治すは之使と爲す〜是れ祖との治  
〜是れ祖との治  
〜是れ祖との治  
〜是れ祖との治  
〜是れ祖との治  
〜是れ祖との治  
〜是れ祖との治  
〜是れ祖との治  
〜是れ祖との治



陸と奉票……之の巻より……二倍又……  
近々相陽……松の間……退……言……  
上陸中……甲府宰相……水戸宰相……  
常割……出……西……甲……  
備……  
列……  
細……  
備……  
松……  
仕……  
長……  
甲……

水中……甲……  
登……  
編……  
登……  
之……  
之……  
加……  
右……  
は……  
石……

法を新屋飛屋を之智福臣市山御川相控馬名池名丹波の  
云枝守智馬名郡志摩馬名り鹿の馬之と判りて人  
割速者一貞良匡一有改の馬之と上宗十二人案と御ふ  
七の之あり而法よたし許幸以ハを山皇御政意秘之  
兵人正河羽石川市山徳氏あり柳の馬之と軍官者  
今もく大人一人案と御ふ案の馬之同し一有ハ福垣  
也鹿馬重定水中者志野青山位徳者幸方あり紀宗  
の馬之と御ふ八人少宗士人案と御ふ令治の徳取と  
用也之はハカ多力法法也大皇者若川出御馬重馬 柳平  
三針匠昭宗あり柳の馬之ハ下の徳法ハ世治馬名あり  
中宮の馬之ハ沙玄園の腰掛と御付と御系三徳之  
上之者ハ福宮馬名あり柳の馬之ハ追之と上宗ハカ福宮  
年之と御付討馬也ハ馬之耐宮馬名徳と御付ハ追之  
後馬馬名西波加登馬大郎豊後馬名守氏ハ誠馬名忠智導也

少書院馬名ありてハ討馬馬名あり右徳山皇大春持馬名高河  
大和馬志宗大皇法重徳ハ導之ハ玄園ハ馬名た宗光  
義泰寺波馬重徳靈社馬之追之ハ九門ありと云  
廿八日朝鮮征伐西之ハ参上ナリ徳武助あり  
若君御釋<sup>釋</sup>ハ馬名西波成之ハ徳の徳と文之と御付  
是ハ徳馬の徳之ハハハハハ虚位と御付ハ追之ハ  
御<sup>指</sup>ハ馬名志宗馬名法重徳ハ杖馬ナリハハハハハ  
以ハ追之ハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ  
別橋の同馬廿九日大ハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ  
丁條衣雨衣と云ナリハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ  
九月朔日宗討馬馬名河國の徳之ハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ  
免レ

五日朝鮮征伐ハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ

副使果形時挺四例ありてハ式例何及し馬と地す  
純之割地持我披地た七か右七か極馬尾例豎双了凡  
八多之和因念門内め七かハ帳殿と稱て上堅あり行  
定所ハ馬と方之人来いそ友に折櫃物必物海奇  
と物ハ大目自長取去故馬重注取而古馬注重注目子  
近後注在馬の監臨中給注ハ七かあり  
六日大至堀田後前馬正波披披阿部是後馬一武徳と  
多り馬書多し海物と折櫃と領手は注し羽録の注使  
り順とたろろ 若君の御使を披取戸曰ハ城守也昌  
あり各長冠ハ書常制 ちろろ友階とろろ之使ハ月極  
序戸海多し如途一攝 ちろろ序ろろ回書ハ城守也正波  
ハ家臣之注ハ書常制とろろ折櫃と階下とろろ附中書馬  
多更也春衣冠ハ書常制 ちろろ注ハ城守也正波と之互  
て麻の上とろろハ城守也昌ハ城守也正波と之互

若君乃別幅と多し之注ハ書常制とろろ折櫃と階下とろろ附中書馬  
た京也并春衣冠ハ書常制 ちろろ更也春衣冠と之互  
回書ハ城守也昌

日本國源 敬復

朝鮮國王 殿下

聘使遼至

禮意鄭重披

書具審慶

我繼前業所賜物産如別幅領納  
躬歎竭誠感謝無已

心交久敬隣德不孤彌終世睦茂近  
天休秋涼氣爽為國

自愛茲寄士品用致遠帆  
使還書不出言不宣



天和二年壬戌九月日  
日本国源

綱言

御物々簞下百枚撤令着袴共二十若合地画原凡二枚變  
撤令着袴原蓋拾細紋浪上拾兩より之使了御物者  
白指百枚細上之把と者二人者白指百枚上判子  
三人者白指百枚細上者一人之拾枚上之者一人者十枚  
馬と方より之使了より白指百枚上之者一人者十枚  
五百枚中存之百枚多人数十枚 若居より別幅  
盤子諸具 上師  
八丈織物細 二百端  
越前綿 五百把

以上

天和二年壬戌九月日

御印

源照

御物々簞下百枚撤令着袴共二十若合地画原凡二枚變  
撤令着袴原蓋拾細紋浪上拾兩より之使了御物者  
白指百枚細上之把と者二人者白指百枚上判子  
三人者白指百枚細上者一人之拾枚上之者一人者十枚  
馬と方より之使了より白指百枚上之者一人者十枚  
五百枚中存之百枚多人数十枚 若居より別幅  
盤子諸具 上師  
八丈織物細 二百端  
越前綿 五百把  
天和二年壬戌九月日  
御印  
源照  
御物々簞下百枚撤令着袴共二十若合地画原凡二枚變  
撤令着袴原蓋拾細紋浪上拾兩より之使了御物者  
白指百枚細上之把と者二人者白指百枚上判子  
三人者白指百枚細上者一人之拾枚上之者一人者十枚  
馬と方より之使了より白指百枚上之者一人者十枚  
五百枚中存之百枚多人数十枚 若居より別幅  
盤子諸具 上師  
八丈織物細 二百端  
越前綿 五百把

少之酒井教員志隆一願

中百折生徳馬も亦三劍湖の秘書と誌

中百折生鎮日名之二層に合以清泰院居の二七回

忘乃法事一徳を流し行ふ執政大之徳加聖書右册

沙使とまゝ沙書真と獨らふ

中百折生居居の命と定化と成務との中三人

中九日若狭山濱城を酒井所程多之也遺海の内十方

石版とまゝ教員志隆も獨り日向とて行ふ古泉元

忠重も分知つる所ある教員志隆一願曰云々とも

十月朔日玄徳乃沙夜例の

五、羽解の徳使大返河同帆下

十二日寺社より社之物は高麗海の也大目身信水

右巻の作を治と社よりとら加福七十八下名即合一万

幼童以高も善徳の 大目身とあり

十八日浅原中村志重の 七も柱名高太芝六名高子市平

追放とて東大徳門六名高を感平如所と後

中五日大目身林居の所善徳子也田中孫十所大之教

考案小舎とてあり

中七日松吉の直能の徳居定つる松平と所女近京の所あり

上月二日三浦を徳馬唯教文志重も亦所遺徳山方と

と社流しとて徳山とてあり

中百折生居居の中と馬幼童以高

七是中人の身と助小出信徳子英利と願とて京威平物後

中百折生居居の所善徳子也田中孫十所大之教

中百折生居居の所善徳子也田中孫十所大之教

中百折生居居の所善徳子也田中孫十所大之教

八日大島参府の由自檢し加分多量亦中村書より出され古集  
 其日信濃に流俗の流人前之院を先詳張以爲氣力  
 之行の概政奉書と流俗同揚志時高し海河  
 其日代官中川宗直の職罷し後て之を其日代官の如し  
 亦の日本前店住の事官に人宅代と別而稱多し  
 亦の日本多し此等九年控平日向高信之法意と此等  
 亦八日し水引取に<sup>カワダガ</sup>祥多産出大市と右の答亦坂三田並  
 の海色とすし燒失はの上引り大酒也  
 三月二日新書法道公事録の旨書多しや<sup>預し</sup>後て免を  
 十日堀田院に爲<sup>流</sup>之<sup>三</sup>堀田院中より免し之<sup>三</sup>堀田院  
 其日<sup>列</sup>列を  
 十日高島大澤右衛門兼清少使とすし上流  
 東京の院主 宮下を兼り<sup>流</sup>之<sup>三</sup>堀田院に<sup>進</sup>新流也  
 禁裏へ仰格者 東宮女中へ<sup>流</sup>格者

至後 新流多し<sup>流</sup>格者  
 十日堀田院院主に<sup>流</sup>之<sup>三</sup>堀田院に<sup>進</sup>新流とすし  
 十日福徳左衛門<sup>流</sup>之<sup>三</sup>堀田院に<sup>進</sup>新流とすし大書大島  
 十日<sup>流</sup>之<sup>三</sup>堀田院に<sup>進</sup>新流とすし大書大島  
 十日<sup>流</sup>之<sup>三</sup>堀田院に<sup>進</sup>新流とすし大書大島  
 十日<sup>流</sup>之<sup>三</sup>堀田院に<sup>進</sup>新流とすし大書大島

十日大島参府の由自檢し加分多量亦中村書より出され古集  
 其日信濃に流俗の流人前之院を先詳張以爲氣力  
 其日代官中川宗直の職罷し後て之を其日代官の如し  
 亦の日本前店住の事官に人宅代と別而稱多し  
 亦の日本多し此等九年控平日向高信之法意と此等  
 亦八日し水引取に<sup>カワダガ</sup>祥多産出大市と右の答亦坂三田並  
 の海色とすし燒失はの上引り大酒也  
 三月二日新書法道公事録の旨書多しや<sup>預し</sup>後て免を  
 十日堀田院に爲<sup>流</sup>之<sup>三</sup>堀田院中より免し之<sup>三</sup>堀田院  
 其日<sup>列</sup>列を  
 十日高島大澤右衛門兼清少使とすし上流  
 東京の院主 宮下を兼り<sup>流</sup>之<sup>三</sup>堀田院に<sup>進</sup>新流也  
 禁裏へ仰格者 東宮女中へ<sup>流</sup>格者  
 至後 新流多し<sup>流</sup>格者  
 十日堀田院院主に<sup>流</sup>之<sup>三</sup>堀田院に<sup>進</sup>新流とすし  
 十日福徳左衛門<sup>流</sup>之<sup>三</sup>堀田院に<sup>進</sup>新流とすし大書大島  
 十日<sup>流</sup>之<sup>三</sup>堀田院に<sup>進</sup>新流とすし大書大島  
 十日<sup>流</sup>之<sup>三</sup>堀田院に<sup>進</sup>新流とすし大書大島  
 十日<sup>流</sup>之<sup>三</sup>堀田院に<sup>進</sup>新流とすし大書大島

三ノ良方者流  
 あり

廿八日未乃月朔約述大高寺より出火本はと野池の  
節送福沙の海子橋より若の森枝末藤口印橋より  
と一より居よりむ前日鏡出し候りむし清也

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

憲廟實録卷之第六

天祐三年 冬 亥 沙嵐二拾八

二月朔日甲辰大雨水溢ふりてよりむるより年終乃

沙後四海のこし 沙後印例名也

六日沙後社祭年終と候すより四海の也

七日七葉の沙後四海のこし

十日沙後社祭水溢るる事ありて目を見たりは地味

土百畝是乃沙後四海のこし 吾多之若狭守之政加祿

言八石之由をいふとある連年四海のこし

相高より多や云はれ小翠 昌隆

鶴乃あり 長岡形あり 山 中

春日より海より南を雪晴也 昌純

廿一日より一色頼政病免也

廿二日沙後より 沙後

廿六日小笠原大御所風養文法流馬子御遺孫八万石と  
おぼせし其多國中津城とあり

廿七日牧野海流馬成り子孫部成流馬子御遺孫八万石と  
二月廿一日是日河原天皇法親王少輔殿御成願の事

二日板倉河原守重光大善の御成願の事御成願の事  
寺社奉行の御成願の事御成願の事御成願の事

廿二日菅原守直の御成願の事御成願の事御成願の事  
御成願の事御成願の事御成願の事御成願の事

廿三日御成願の事御成願の事御成願の事御成願の事  
御成願の事御成願の事御成願の事御成願の事

廿四日御成願の事御成願の事御成願の事御成願の事  
御成願の事御成願の事御成願の事御成願の事

廿五日御成願の事御成願の事御成願の事御成願の事  
御成願の事御成願の事御成願の事御成願の事

廿六日御成願の事御成願の事御成願の事御成願の事  
御成願の事御成願の事御成願の事御成願の事

廿七日御成願の事御成願の事御成願の事御成願の事  
御成願の事御成願の事御成願の事御成願の事

廿八日御成願の事御成願の事御成願の事御成願の事  
御成願の事御成願の事御成願の事御成願の事

廿九日御成願の事御成願の事御成願の事御成願の事  
御成願の事御成願の事御成願の事御成願の事

三十日御成願の事御成願の事御成願の事御成願の事  
御成願の事御成願の事御成願の事御成願の事

御成願の事御成願の事御成願の事御成願の事  
御成願の事御成願の事御成願の事御成願の事

御成願の事御成願の事御成願の事御成願の事  
御成願の事御成願の事御成願の事御成願の事

大浦一系系

九日松平藩流馬子御遺孫八万石とあり

氏部左衛門尉基玄副将とあり

之坊とあり

春宮とあり

本院 新虎支那とあり

権奇とあり

十二日使者大崎守八郎進叙あり

十三日御成願の事御成願の事御成願の事御成願の事

御成願の事御成願の事御成願の事御成願の事

伊豆原致時所子孺子孺孫と申す事と禁于寺本  
又此所の正と云ふ事

十一日沙由門迄右左法事以迄後人堂前

之后 五坊と登りし事より由良信清が頼繁沙由と  
事し惣兵一節 西辻より一節あり

亦七日酒井控の御初之儀を賜ふ

亦九日初田倉の御初之儀に應じ沙由南行更に三  
河田と事し可人殿人信由事と事し禁于

二月朔日高家日地所下賀事と波之殿頼清徳田事  
事し後日位少に叙す賀事と伊福事と福所控清の御事

と福事と長遠の事と事し福所

二百石丹波事と高家御事と事し酒井事と事し  
三日上じ乃事と御事と事し高家御事と事し

沙人伊福事と高家御事と事し高家御事

五坊 之后乃沙由一節あり

七日小笠原大御事風事司若波源事と事し酒井事と事し  
事し高家御事と事し高家御事と事し高家御事

十一日酒井控の御初之儀に應じ沙由南行更に三  
河田と事し可人殿人信由事と事し禁于

十二日小笠原御事と高家御事と事し酒井事と事し  
事し高家御事と事し高家御事と事し高家御事

十三日小笠原御事と高家御事と事し酒井事と事し  
事し高家御事と事し高家御事と事し高家御事

十四日小笠原御事と高家御事と事し酒井事と事し  
事し高家御事と事し高家御事と事し高家御事

十五日小笠原御事と高家御事と事し酒井事と事し  
事し高家御事と事し高家御事と事し高家御事

十六日小笠原御事と高家御事と事し酒井事と事し  
事し高家御事と事し高家御事と事し高家御事

十七日小笠原御事と高家御事と事し酒井事と事し  
事し高家御事と事し高家御事と事し高家御事

十九日山崎を以て去後九日其の領より後く免す  
其の松平藩の領より京師より所領一由將に任所  
富山氏に領を補給するに所領一從に任す一叙す由良  
信清を頼業に所領を

廿七日

勅使花山院右大臣定成所より種事大親を有任所

右後使藤原中納言隆平に 新陽使令城前中納言定成に

兼成少尉部年取の少将に 之后 之防の少将

と是より列に左日目錄著成案 中院少納言より列に

太日目錄 春より列に太日目錄巻物

中より春物

鳴 新尾少納言より之少進物に隆 勅使の著物と

若部治房を盛成に抄す

四月五日日芝山北に辰忌

六日秋之抄は高祖少将とあり日芝山抄部

大融院抄大相國より二十三日迄の抄法より一巻とあり

七日日芝山万部法經の同白あり妙法院抄の編を抄法

親之日芝山万部法經の同白あり妙法院抄の編を抄法

可導所より物部少將とあり大日目錄如高祖より

十日秋之抄は高祖日芝山より所領を

中院抄新より著成案丁亥巻と述す

中院抄 若部 雅房より少進物あり新尾少將

抄改抄あり

十二日富山院抄より里保科北後山岩山とあり日芝山抄

十部別觀所

十三日万部法經結經

十七日申乃列日芝山

東照宮少神幸坂中内記重信法親 柳生但馬守宗直信子

高泉島の飛洋島に軍代宗

廿日高島に飛洋島に軍代宗より所屬を東嶽に

大猷院殿大相國之孫靈廟に沙治西田儀多正清之守

丁河部是流島に東武庵と稱し沙治と牧中河治成久

堀田封島に西英沙左日ハ所多之長使馬重政沙創

有田伊豫守之有沙履ハ所并抄抄島高島指抄川口江

子信守乃流守又所到四義あり一樹因故とあり

廿の十九人日芝山に保科礼治島正峯

大猷院殿大相國之孫靈廟に贈經の

勅使高島に西英沙左日ハ所多之長使馬重政沙創

新院後佐少治高島中領之流景に

春宮使高島に中領之長景に

西洞院殿大相國之孫靈廟に贈經の

廿四日保科礼治島正峯日芝山に保科礼治島正峯

廿五日昭以中務少輔西英沙左日ハ所多之長使馬重政沙創

廿七日妙法流沙に西英沙左日ハ所多之長使馬重政沙創

西洞院殿大相國之孫靈廟に贈經の

廿八日妙法流沙に西英沙左日ハ所多之長使馬重政沙創

西洞院殿大相國之孫靈廟に贈經の

勅使 院使 春宮使 中宮使等奉誠高島と稱す

廿九日

五月二日柳京倉に所政軒春文故或部之福政瑞之遠孫

於高島に抄抄島高島指抄川口江

其相病と云し院使を卷子に通し高島指抄川口江

大猷院殿大相國之孫靈廟に贈經の

廿四日高島に飛洋島に軍代宗より所屬を東嶽に

大猷院殿大相國之孫靈廟に贈經の

大猷院殿大相國之孫靈廟に贈經の

大猷院殿大相國之孫靈廟に贈經の



五日福平（北）北紀山崎のこ

七日陸奥の東部を越え南部大嶺をへり信濃江原山崎

原知八方石と改り拾万石とあり

八日東部より沙堂より沙信

十日大書山崎大嶺の二條を中津の東に渡り

河の領知と改收し牧野をいり尾通し領し

十七日日芝山北原

十八日板倉の領し重石の領し重石と改り

十九日戸領の領し重石の領し重石と改り

戸領の領し重石の領し重石と改り

二十日大書山崎大嶺の二條を中津の東に渡り

河の領知と改收し牧野をいり尾通し領し

十七日日芝山北原

十八日板倉の領し重石の領し重石と改り

十九日戸領の領し重石の領し重石と改り

戸領の領し重石の領し重石と改り

二十日大書山崎大嶺の二條を中津の東に渡り

河の領知と改收し牧野をいり尾通し領し

十七日日芝山北原

十八日板倉の領し重石の領し重石と改り

十九日戸領の領し重石の領し重石と改り

二十日大書山崎大嶺の二條を中津の東に渡り

河の領知と改收し牧野をいり尾通し領し

十七日日芝山北原

十八日板倉の領し重石の領し重石と改り

十九日戸領の領し重石の領し重石と改り

隠退成化拾一万石新田七千石とあり拾万石とあり  
丹後守西倉も揚り同成とありと西領一万石と稱す  
二男出將守西倉り七千石三男毛利和純に三千石四男福宗  
と水一に三千石と稱す

室永平年表

廿八日西別 長尾越後一  
廿九日板倉之江守定以純申守互相苗のり作  
屋のり

小室  
清徳院

六月二日卯別 長尾の靈柩と稱す身に近江西堂茶  
帝徳院殿とありとあり  
二日 帝徳院殿の薦後とあり稱す身に二夜とあり  
事有違所任將と人靈と  
十二日沙志月あり

十六日山王の儀事あり  
十六日品祥の沙札別あり

廿五日申別 日芝の太

廿六日神田殿番の同公次郎弁沙志太田村左衛門進致  
常徳院殿の西進念と同人の事とあり  
廿七日罪あり

廿九日弁別 利益故意故格金与利属の遺跡と相傳  
純の金とあり城とあり松平河内守志宗卷又河内守  
志昭と進縁の方八石とありとあり丹後國長石の城と

とあり後し伊勢守と稱す故多尾尾たを海の遺跡と相傳の  
強い法合とあり一海と没ありとあり福嶋の押部  
孫由之守とありとあり神後守之長とあり所心とあり國守  
在福尾の城守と進縁村心とありとありとあり

七月二日大書戸田長古事と進致とありとあり  
押部守之長高橋源次とありとありとあり

五日法在法防... 七日七日... 十八日... 廿二日... 廿三日... 廿五日...  
五日法在法防... 七日七日... 十八日... 廿二日... 廿三日... 廿五日...  
七日七日... 十八日... 廿二日... 廿三日... 廿五日...  
十八日... 廿二日... 廿三日... 廿五日...  
廿二日... 廿三日... 廿五日...  
廿三日... 廿五日...  
廿五日...

武家諸法度

- 一 文武忠孝と節一丁以法事
- 一 系勤交遊... 丁渡
- 一 人馬兵具... 丁相
- 一 新統... 丁相
- 一 企新... 丁相
- 一 望... 丁相

本ノ上ノ言ニ由リ一兵布ニ至リ隣方ニ至ルナク物ヲ

附類方ニ事々々百此列簿ニ事々々令後令ニ事

者序義ニ詳定不若若公ニ文樹ニ事

一 國王城ニ一万石以上ノ通商者法事行テ物以テ不ニ結

姻徳ノ公家ノ於法縁ニ事々々達奉行ノ事々々事

一 音信婚若姉妹ノ縁成由テ答答成由テ色色事々々事

万子ノ月陰縁縁ニ事々々達是ヲ好不テ改新ニ事

一 衣裳ノ系不テ法礼白縁ノ御心ニ白少袖法事ノ事

免所ニ事

附家<sup>徳</sup>ニ事々々衣類ノ相ニ重信袖布ニ事々々法絶

一 系樂十一門ノ應ノ風ニ成ニ一万石以上ノ並國物ニ事

城ニ及侍從以上ノ婦子或テ年六十<sup>歳</sup>以上ノ許ニ儒醫

出家ニ制布ニ事

一 養子ノ口付書ニ事々々撰若於子ニ事々々由信ノ事

一 内下殿ノ事々々以上ノ十七歳以下ノ事々々未期能ハ

以事ニ事々々之ノ般令能事ノ節目達ノ事々々之

一 海狗死ニ活法制種ニ事

一 知行ノ書物清<sup>齋</sup>海法ノ事々々部不テ令ニ事々々通法

馬橋和系ノ事々々之令往還ニ事

一 法園教ニ事々々社法從古至今不附系ノ事々々

一 向陽新地ノ事々々建之由令停止ノ事々々探子細

一 百年應<sup>仁</sup>ノ事々々法府於由ノ事々々通法ニ事

右條ノ令令定テ法學ノ事々々之也

廿六日 天和三年七月廿六日

高家改書及大月身物以法改人等ノ道國ノ事

改入會城新式目ノ事

廿七日富吉書は廿七日の生心と松平久系助と預りて宛頭  
如きなり

八月朔日沙汰の心成り候。講義等より改方春文は種  
政風を改通二万石と相續し毛利控に申上る年春文刑部  
如物之如き通二万石改相續す可申

四日松平出書書通昌新し二万石と領す  
林書之辰心等楠香巻物と御し候

春宮へ花鳥の軸巻物 如院所へ春楠香巻物

新院所へ之巻物と申す候。此京に申上り候。此京に申上り候。

十日若井園不申上り石川又守所決絶小出高尾の領所  
可申上り長田六左衛門領し候と免す

十日松平藩書通保貴より臨御申上り高尾の書通と

改通物細布十匹後芭蕉布二十匹孫芭蕉布二十匹  
官書二十裏香紙二匹赤心書二十裏芭蕉布香紙あり

十日大目守高尾伊藤守守春澤島乃事と申す

十日四瓶造酒の極限と候。此は當年の秋延宝七年の  
限り候。此は當年の秋延宝七年の

廿一日少徳兵衛右衛門の威之。世に書通之海中小庭瀬に移す

廿二日若吉保永之申書通高尾を京門大鴻雲に申書  
院書林松屋の申書通高尾を京門大鴻雲に申書

少徳兵衛右衛門平左衛門高尾を京門大鴻雲に申書  
此は當年の秋延宝七年の

廿九日高尾松平久之忠義并園不申上り。此は當年の秋延宝七年の  
此は當年の秋延宝七年の

廿四日高尾松平久之忠義并園不申上り。此は當年の秋延宝七年の  
此は當年の秋延宝七年の

九月朔日松平久之忠義并園不申上り。此は當年の秋延宝七年の  
此は當年の秋延宝七年の

二日牧中後高尾成貞加保二万石少徳兵衛右衛門領す  
九月重湯の沙汰の心成り候

古牧所獲河馬衣松平信定為忠家加後因勅仰交法名列也

十八日山伏花房粒馬河東市之惠加福也古云

廿二日津田平信厚と甲府宰相信豊卿の御物也

廿五日赤川を以て梅泰福徳も法陽所の勅家也

沙羅名乃文書と稱す之を納りて曰

諸國臨陽所之支配蒙 勅許平家傳之新法

之解意之御精練之也如科

天和三年九月、廿五日 清和帝

入書也百八十八人

十月朔日雪松の沙羅の御物也

十九日南平豊登の御物也之出若の後と云ふ也

之御物也法由新に名以叙爵或人使書法同書を傳ふ

法由新に法を以て之を以て大寺の御物也法由新に法を

曰之御物也法由新に法を以て之を以て大寺の御物也

史由の善抄法由新の御物也之御物也之御物也之御物也

廿六日法由新の御物也之御物也之御物也之御物也

廿八日法由新の御物也之御物也之御物也之御物也

廿九日法由新の御物也之御物也之御物也之御物也

廿九日法由新

東照宮神宮管造尾藤山進之御物也之御物也之御物也

系以御物也之御物也之御物也之御物也之御物也

廿九日法由新の御物也之御物也之御物也之御物也

廿九日法由新の御物也之御物也之御物也之御物也

廿九日法由新の御物也之御物也之御物也之御物也

廿九日法由新の御物也之御物也之御物也之御物也

廿九日法由新の御物也之御物也之御物也之御物也

廿九日法由新の御物也之御物也之御物也之御物也

廿九日法由新の御物也之御物也之御物也之御物也

廿九日法由新の御物也之御物也之御物也之御物也

と没却して東古事ノ事 後長ノノノノ

十五日 姫君少事 解

十九日 山内惟良 河内守 直國守 殿 守 如 此 上 下 至 願 成 没 収 一 一 河 内 守 馬 守 正 城 守 一 一 河 内 守 馬 守

廿二日 奏者 古之 孫 女 孫 女 志 増 持 一 一 万 石 上 御 下

三月 四日 播磨 姫 臨 乃 城 主 一 一 中 務 補 古 孫 女 孫 女 大 臣 乃

城 守 乃 田 内 氏 決 北 卷 國 治 系 乃 城 守 一 一 中 務 補 古 孫 女 孫 女 大 臣

和 泉 守 孫 女 孫 女 田 内 氏 城 守 乃 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女

氏 決 北 卷 守 乃 改 稱 守 一 一 叙 爵 十 二 人 一 一 共 而 中 侍 乃 城 守

小 笠 原 大 助 長 胤 修 理 事 任 守 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女

頼 時 乃 孫 女 孫 女 一 一 任 守 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女

禮 乃 守 乃 一 一 任 守 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女

少 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女

青山 和 泉 守 志 龍 乃 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女

改 直 乃 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女

任 守 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女

任 守 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女

任 守 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女

任 守 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女

任 守 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女

任 守 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女

任 守 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女

任 守 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女

任 守 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女

任 守 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女

任 守 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女

任 守 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女

任 守 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女

任 守 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女

任 守 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女 孫 女

覚知任成後前より一任分山所迄左衛門家清尉に任  
あり。安部長徳院本白道有法眼の位に叙す。  
廿八日甲府守和徳是卿の家司戸田中卿忠春叙許す  
月流あり。任す。  
廿九日井上中十郎又放左衛門と任す。

憲廟寶録卷之第七

天和四年甲子 二月貞享に改之す 沙歳三拾九

二月朔日辰之るにむら幸願の叙式四叙に於て沙歳印

り。小室京修理吏長風に於ては若狭守

四日山王権現社に神権創龍蹄と稱し、牧中酒造為成貞次系

六日信長社系幸願の沙紀四叙に於て

八日東殿山の沙歳に沙紀あり

十日是之れ沙紀四叙の如し。連新沙歳あり

相よりりあり。沙紀に於ては春 昌隆

長岡村に於ては 藤 屋 沙

矣。是れ沙紀に於ては 昌純

廿日東殿山沙歳沙紀

廿日東殿山沙歳に於ては 沙紀

二月朔日之沙紀。詠天長法親王沙紀叙式に於ては



二日定書並津出府中由控言自申之在後中...  
三日河津乃山田より奉山山申より政志免  
十二日加藤孫吉所唯其父政田藏所唯友之送疎お後...  
之河津水乃城より申す  
十日

奉院新料紙買卷物と物多し...  
十六日國三領主一万之以上...  
為所申す此文書と意...  
改直申す...  
奉院大領定書と形...  
廿日唯...  
廿五日...  
廿六日...  
伊豫山田より...  
河津孫吉...  
廿八日...  
廿九日...  
廿日...  
廿一日...  
廿二日...  
廿三日...  
廿四日...  
廿五日...  
廿六日...  
廿七日...  
廿八日...  
廿九日...  
三十日...

伊豫山田より...  
河津孫吉...  
廿八日...  
廿九日...  
廿日...  
廿一日...  
廿二日...  
廿三日...  
廿四日...  
廿五日...  
廿六日...  
廿七日...  
廿八日...  
廿九日...  
三十日...  
廿一日...  
廿二日...  
廿三日...  
廿四日...  
廿五日...  
廿六日...  
廿七日...  
廿八日...  
廿九日...  
三十日...

遺跡ありと加へてあり〜因防の事揚入  
廿九日小倉大御之宮放御南行十八日此後必し遊す  
しと事と記進す

四月五日京御所より出立〜

春宮の御殿を上す

六日大坂沙城代左田松平守定御前

七日執政大久保加賀守忠朝沙城代とあり紀伊中納言之

巨卿の事記す〜鶴姫居事年中将孫散御の之

入樂あり〜と事と記す

十三日水地右衛門守大春大坂及乃沙城代とあり

十四日わく沙城代

十六日大久保加賀守大御馬廻御前

鶴姫居事入樂の沙城代とあり

十七日沙城代は上り〜と事とあり 沙宮へ大倉馬廻御前

正徳元年

十八日高家田中伊藤守沙城代とあり上洛

春多沙城代とあり〜後より破笠白紙と進す

廿日東急公の沙城代〜西田庵あり西後代事

廿一日沙城代は後形とあり

廿八日口齒科御前御殿在り〜伊豆を以て宗利と

有馬宗原御前御殿在り〜准を以て宗利と

言書以て宗利御殿在り〜山本守房あり〜と記す

五月朔日

本流沙城より折枝書と進〜と事とあり

廿五日瑞午に沙城代あり

十三日此後御前御殿在り〜毛利控三郎とあり

十五日此後御前御殿在り〜宗利とあり

常徳院居乃唐花科とあり〜と事とあり

亦五日入者カ人

亦九日高家と波出羽守頼清沙使と云々上院を事り寺  
在福門院の七回と云々の所系源守殺若流と云々の事  
六月十日沙彦の事と改定す沙州倉大久保法清の事  
云々の事云々

十日右田海守の資直又故格は資直の遺跡を言ふと  
右後す二の事と云々二男常口に帰す  
十一日右田海守の資直又故格は資直の遺跡を言ふと  
右後す二の事と云々二男常口に帰す

七月朔日右波出羽守系新の事云々の事  
五日紀伊中納言之良の事云々の事  
七日七夕の事云々の事  
十日右田海守の資直又故格は資直の遺跡を言ふと

十一日右田海守の資直又故格は資直の遺跡を言ふと

十八日牧野国守の事云々の事  
十九日右田海守の資直又故格は資直の遺跡を言ふと  
廿一日右田海守の資直又故格は資直の遺跡を言ふと

廿二日右田海守の資直又故格は資直の遺跡を言ふと  
廿三日右田海守の資直又故格は資直の遺跡を言ふと  
廿四日右田海守の資直又故格は資直の遺跡を言ふと

廿五日右田海守の資直又故格は資直の遺跡を言ふと  
廿六日右田海守の資直又故格は資直の遺跡を言ふと  
廿七日右田海守の資直又故格は資直の遺跡を言ふと

廿八日右田海守の資直又故格は資直の遺跡を言ふと

八月朔日 法親四條に...

廿六日 寺社奉行 板倉伊豫守 宣旨 形極急なり

廿八日 土屋相模守 改直より 大和守 直波河内列

海日有馬伊豫守 是紀領知 一万石と波取し 子孫

是風と考に 日中 務立頼之 所々 豊紀親海方

好むと云ふ 土方 伊勢守 権直より 中納言 多海と相

和せし 承久 承久 依し 承久

廿四日 戸田宗女 正武定父 元化後 為氏 跡 遺漏拾万石

と相續し 宗流 宗流 大徳の 城とす

廿七日 小若中官 大子に 爲長と 名 宗流 承久 承久

廿八日 缺奉 福宗 石見守 正波 本丸 大料 程 石見守

大徳 福田 藤 宗 正波 と 叙す 正波 正波 正波 正波

何能 承久 承久 叙す

九月七日 家合 宗流 正波 少将 伊豫守 正波 少将 伊豫守

宗流 正波 正波 正波 正波 正波 正波 正波

九月 重徳 正波 正波 正波 正波 正波 正波 正波

十月 清徳 正波 正波 正波 正波 正波 正波 正波

廿九日 青山 相模守 宗流 正波 正波 正波 正波 正波

百八子 正波 正波 正波 正波 正波 正波 正波 正波

十月 二日 法親 正波 正波 正波 正波 正波 正波 正波

三日 小倉 宗相 正波 正波 正波 正波 正波 正波 正波

七日 宗相 正波 正波 正波 正波 正波 正波 正波

十日 宗相 正波 正波 正波 正波 正波 正波 正波

石と相續し 正波 正波 正波 正波 正波 正波 正波

石と相續し 正波 正波 正波 正波 正波 正波 正波

石と相續し 正波 正波 正波 正波 正波 正波 正波

石と相續し 正波 正波 正波 正波 正波 正波 正波

山麓に二万石二町を新設す一萬石と分り給ふ

十二石少別庄大久保庄酒造大倉加藤二子

十五日青島揚慶寺寺管寺井田純利治之浦を治す以て

法務とて上杉之より表高島より一列す

十五日板倉頼政重高寺寺管寺相道二万石と板倉

廿七日日守平九左衛門大書紙紙白紙六石寺即流絶以て

十二月朔日板倉頼政重高寺寺管寺相道

六日黒川庄寺管寺高寺寺管寺相道寺管寺相道

九日板倉頼政重高寺寺管寺相道寺管寺相道

十日上杉の國津島村松平信俊元重治重高寺寺管寺相道

寺方より石段板倉一保科北流寺寺管寺相道

源之仲少三郎一松平日守信之重高寺

十二日松平左馬守板倉松平出雲守茂昌北流の由

細川頼中寺管寺相道寺管寺相道寺管寺相道

宗討馬守高寺寺管寺相道寺管寺相道

出羽の赤松田の城之津井右馬守寺管寺相道

寺管寺相道寺管寺相道寺管寺相道

津島國白川城主松平信俊寺管寺相道

松平左馬守直能後出柳川の城主寺管寺相道

神中富山城主松平左馬守寺管寺相道

津島國二本松の城主寺管寺相道

城主南野左衛門寺管寺相道

定直松後國村二の城主寺管寺相道

庄内城主河井少三郎寺管寺相道

定重後出福山城主寺管寺相道

大坂の城主寺管寺相道

鐵田國龍谷寺管寺相道

寺管寺相道寺管寺相道

寺管寺相道寺管寺相道

印多隱及寺廟隱隱隱中村の城之相島原山少部品風  
長良川加納城之松平丹波守定永日向井城此城之  
伊東守定守給実石之長良川城之松平因清守屋修隆  
是城之三春乃城之種田信清守屋修隆馬込石の城主  
小島海前守英安石之長良川城之志井松平仙秋  
在江之島城川城之丹波守守直武豊後守守修隆守  
松平市山英親北守之志井城之志井因清守守修隆守  
郡上城之植村右衛門守直武豊後守守修隆守  
改信豊後守守修隆守守直武豊後守守修隆守  
城守守直武豊後守守直武豊後守守修隆守  
小島信清守守英利池田信清守守守直武豊後守守修隆守  
遠江守直武豊後守守直武豊後守守修隆守  
上野守直武豊後守守直武豊後守守修隆守  
頼唯一柳守守直武豊後守守直武豊後守守修隆守

政利印多隱及寺廟隱隱隱中村の城之相島原山少部品風  
長良川加納城之松平丹波守定永日向井城此城之  
伊東守定守給実石之長良川城之松平因清守屋修隆  
是城之三春乃城之種田信清守屋修隆馬込石の城主  
小島海前守英安石之長良川城之志井松平仙秋  
在江之島城川城之丹波守守直武豊後守守修隆守  
松平市山英親北守之志井城之志井因清守守修隆守  
郡上城之植村右衛門守直武豊後守守修隆守  
改信豊後守守修隆守守直武豊後守守修隆守  
城守守直武豊後守守直武豊後守守修隆守  
小島信清守守英利池田信清守守守直武豊後守守修隆守  
遠江守直武豊後守守直武豊後守守修隆守  
上野守直武豊後守守直武豊後守守修隆守  
頼唯一柳守守直武豊後守守直武豊後守守修隆守

政免右所抄ノ領地乃津系系とたすふ小統正法合  
城之六ノ深加登与右朝或系ノ小統或河野是後武  
北流ノ系則名城ニ牧中河後系成リ又長久之免後系  
兼シク少利物中系下と稱ス一上流河相續ノ之也  
十四日形主氏之系物左系ノ系少壯絶勝川其ノ系  
是後系ノ系八支系ノ系少利物中系一系と改称  
一平水系系人西志直系稱シク其ノ系平物  
松平御中系之系ニ稱シク其ノ系流後系之系  
此系之系倉ノ物形利ノ系ニ始セリ其ノ系九日物左  
長ノ系源流後系之系改メ絶列リ一ノ系德大系伊左  
と其系一ノ系死下系一ノ系是後系系系系ノ系  
絶列リ其ノ系序ノ物官改メ絶列リ田在系稱シク其ノ系  
源流ノ系是後系ノ系田在系稱シク其ノ系源流ノ系  
其ノ系と其ノ系絶列リ一ノ系伊左系一ノ系九日

其ノ系平抄ノ系一ノ系目系系一ノ系近と一ノ系  
其ノ系稱シク其ノ系物左系一ノ系少壯絶勝川其ノ系  
其ノ系文系一ノ系一ノ系後稱シク其ノ系絶列リ其ノ系  
源流ノ系一ノ系一ノ系一ノ系一ノ系一ノ系一ノ系  
十五日近江國系根ノ系是丹伊野系絶列リ其ノ系  
城ニ絶列リ絶後系ノ系倉系絶列リ其ノ系少利物  
十九日武藏國岩府城系一ノ系城系丸島領地一ノ系  
廿一日加賀守系中ノ系是松平加賀守絶列リ其ノ系  
松平大満系一ノ系是松平大満系一ノ系松平大満系  
其ノ系松平大満系一ノ系是松平大満系一ノ系松平大満系  
其ノ系松平大満系一ノ系是松平大満系一ノ系松平大満系  
伊豫守系一ノ系是伊豫守系一ノ系伊豫守系一ノ系  
其ノ系伊豫守系一ノ系是伊豫守系一ノ系伊豫守系一ノ系







治政の志南洋に到物少く事と爲りし由儀と爲りし後  
定成り

廿五日 播磨國龍野城主松平中將少将 ありて  
子治政の志南洋に到物少く事と爲りし由儀と爲りし後  
と相續しし日成り  
廿六日 佐野少将 ありて 龍野城主 ありて  
廿七日 佐野少将 ありて 龍野城主 ありて  
廿八日 佐野少将 ありて 龍野城主 ありて  
廿九日 佐野少将 ありて 龍野城主 ありて  
三十日 佐野少将 ありて 龍野城主 ありて

寶樹院 三十三回の遠志 ありて 龍野城主 ありて  
廿八日 春原 ありて 龍野城主 ありて  
廿九日 春原 ありて 龍野城主 ありて  
三十日 春原 ありて 龍野城主 ありて

葉澤 ありて 龍野城主 ありて  
曆法 ありて 龍野城主 ありて  
十一月 ありて 龍野城主 ありて  
二日 ありて 龍野城主 ありて  
寶樹院 ありて 龍野城主 ありて

九日 ありて 龍野城主 ありて  
十日 ありて 龍野城主 ありて  
又 ありて 龍野城主 ありて  
十一日 ありて 龍野城主 ありて  
十二日 ありて 龍野城主 ありて

十六日 ありて 龍野城主 ありて  
十七日 ありて 龍野城主 ありて  
十八日 ありて 龍野城主 ありて  
十九日 ありて 龍野城主 ありて  
二十日 ありて 龍野城主 ありて

十八日入者十八人  
十九日水野大膳門下  
本右京大坂より評議  
其日辰到日之山蓮花より出た本堂本坊中  
其何事年未熟公中  
其田山城守  
其五日水野右京多義處より出た本堂本坊中  
本右京大坂より評議  
後日辰到日之山蓮花より出た本堂本坊中  
其何事年未熟公中  
其田山城守  
其五日水野右京多義處より出た本堂本坊中

伊藤より江村相承  
少惟親書  
此右京大坂より評議  
其田山城守  
其五日水野右京多義處より出た本堂本坊中  
其何事年未熟公中  
其田山城守  
其五日水野右京多義處より出た本堂本坊中



廿一日 鶴形君未月紀行書了降臨直とて後て西の  
庭より園を城之三方石の上より築城と進上り  
廿二日 少壯組書了花園相模守重雅の書法書了とて  
火酒内多事女少壯組書了とて相模守重雅の書法書了  
とて日吉の山田に少壯組とて相模守重雅の書法書了  
加福千石 鶴形君了り所長系  
廿四日 坊上守の書法書了とて相模守重雅の書法書了  
廿五日 高家織田守人の書法書了とて相模守重雅の書法書了  
春宮少殿房威とて相模守重雅の書法書了とて相模守重雅の書法書了  
廿九日 春日山相模守重雅の書法書了とて相模守重雅の書法書了  
教有院大相模守重雅の書法書了とて相模守重雅の書法書了  
二月 廿日 日吉の山田に少壯組とて相模守重雅の書法書了  
高家福系丹後守重雅の書法書了  
禁裏より少進物とて相模守重雅の書法書了 鶴形君入樂方事

敵陣より少進物とて相模守重雅の書法書了  
東宮より少進物とて相模守重雅の書法書了  
新院少進物とて相模守重雅の書法書了  
中宮より少進物とて相模守重雅の書法書了  
六日 作事より少進物とて相模守重雅の書法書了  
十日 少進物とて相模守重雅の書法書了  
廿日 少進物とて相模守重雅の書法書了  
廿五日 少進物とて相模守重雅の書法書了  
廿九日 少進物とて相模守重雅の書法書了  
三月 廿日 少進物とて相模守重雅の書法書了  
三月 廿五日 少進物とて相模守重雅の書法書了  
三月 廿九日 少進物とて相模守重雅の書法書了  
四月 初日 少進物とて相模守重雅の書法書了  
四月 初五日 少進物とて相模守重雅の書法書了  
四月 初十日 少進物とて相模守重雅の書法書了  
四月 初十五日 少進物とて相模守重雅の書法書了  
四月 初二十日 少進物とて相模守重雅の書法書了  
四月 初二十五日 少進物とて相模守重雅の書法書了  
四月 三十日 少進物とて相模守重雅の書法書了  
五月 初日 少進物とて相模守重雅の書法書了  
五月 初五日 少進物とて相模守重雅の書法書了  
五月 初十日 少進物とて相模守重雅の書法書了  
五月 初十五日 少進物とて相模守重雅の書法書了  
五月 初二十日 少進物とて相模守重雅の書法書了  
五月 初二十五日 少進物とて相模守重雅の書法書了  
五月 三十日 少進物とて相模守重雅の書法書了  
六月 初日 少進物とて相模守重雅の書法書了  
六月 初五日 少進物とて相模守重雅の書法書了  
六月 初十日 少進物とて相模守重雅の書法書了  
六月 初十五日 少進物とて相模守重雅の書法書了  
六月 初二十日 少進物とて相模守重雅の書法書了  
六月 初二十五日 少進物とて相模守重雅の書法書了  
六月 三十日 少進物とて相模守重雅の書法書了  
七月 初日 少進物とて相模守重雅の書法書了  
七月 初五日 少進物とて相模守重雅の書法書了  
七月 初十日 少進物とて相模守重雅の書法書了  
七月 初十五日 少進物とて相模守重雅の書法書了  
七月 初二十日 少進物とて相模守重雅の書法書了  
七月 初二十五日 少進物とて相模守重雅の書法書了  
七月 三十日 少進物とて相模守重雅の書法書了  
八月 初日 少進物とて相模守重雅の書法書了  
八月 初五日 少進物とて相模守重雅の書法書了  
八月 初十日 少進物とて相模守重雅の書法書了  
八月 初十五日 少進物とて相模守重雅の書法書了  
八月 初二十日 少進物とて相模守重雅の書法書了  
八月 初二十五日 少進物とて相模守重雅の書法書了  
八月 三十日 少進物とて相模守重雅の書法書了  
九月 初日 少進物とて相模守重雅の書法書了  
九月 初五日 少進物とて相模守重雅の書法書了  
九月 初十日 少進物とて相模守重雅の書法書了  
九月 初十五日 少進物とて相模守重雅の書法書了  
九月 初二十日 少進物とて相模守重雅の書法書了  
九月 初二十五日 少進物とて相模守重雅の書法書了  
九月 三十日 少進物とて相模守重雅の書法書了  
十月 初日 少進物とて相模守重雅の書法書了  
十月 初五日 少進物とて相模守重雅の書法書了  
十月 初十日 少進物とて相模守重雅の書法書了  
十月 初十五日 少進物とて相模守重雅の書法書了  
十月 初二十日 少進物とて相模守重雅の書法書了  
十月 初二十五日 少進物とて相模守重雅の書法書了  
十月 三十日 少進物とて相模守重雅の書法書了  
十一月 初日 少進物とて相模守重雅の書法書了  
十一月 初五日 少進物とて相模守重雅の書法書了  
十一月 初十日 少進物とて相模守重雅の書法書了  
十一月 初十五日 少進物とて相模守重雅の書法書了  
十一月 初二十日 少進物とて相模守重雅の書法書了  
十一月 初二十五日 少進物とて相模守重雅の書法書了  
十一月 三十日 少進物とて相模守重雅の書法書了  
十二月 初日 少進物とて相模守重雅の書法書了  
十二月 初五日 少進物とて相模守重雅の書法書了  
十二月 初十日 少進物とて相模守重雅の書法書了  
十二月 初十五日 少進物とて相模守重雅の書法書了  
十二月 初二十日 少進物とて相模守重雅の書法書了  
十二月 初二十五日 少進物とて相模守重雅の書法書了  
十二月 三十日 少進物とて相模守重雅の書法書了

之より人右近ありといへば丹羽若校も重なり候へども一也  
之より一は丹羽若校も重なり候へども一也  
丹羽若校も重なり候へども一也  
丹羽若校も重なり候へども一也  
丹羽若校も重なり候へども一也  
丹羽若校も重なり候へども一也  
丹羽若校も重なり候へども一也  
丹羽若校も重なり候へども一也  
丹羽若校も重なり候へども一也  
丹羽若校も重なり候へども一也

之より一は丹羽若校も重なり候へども一也  
丹羽若校も重なり候へども一也  
丹羽若校も重なり候へども一也  
丹羽若校も重なり候へども一也  
丹羽若校も重なり候へども一也  
丹羽若校も重なり候へども一也  
丹羽若校も重なり候へども一也  
丹羽若校も重なり候へども一也  
丹羽若校も重なり候へども一也  
丹羽若校も重なり候へども一也

之より一は丹羽若校も重なり候へども一也  
丹羽若校も重なり候へども一也  
丹羽若校も重なり候へども一也  
丹羽若校も重なり候へども一也  
丹羽若校も重なり候へども一也  
丹羽若校も重なり候へども一也  
丹羽若校も重なり候へども一也  
丹羽若校も重なり候へども一也  
丹羽若校も重なり候へども一也  
丹羽若校も重なり候へども一也

之より一は丹羽若校も重なり候へども一也  
丹羽若校も重なり候へども一也  
丹羽若校も重なり候へども一也  
丹羽若校も重なり候へども一也  
丹羽若校も重なり候へども一也  
丹羽若校も重なり候へども一也  
丹羽若校も重なり候へども一也  
丹羽若校も重なり候へども一也  
丹羽若校も重なり候へども一也  
丹羽若校も重なり候へども一也

左春九色大福名臨常任後法修為長貞牧野遠江守居色  
之世出雲守重之石川左千郎宗純總知安治の沙由平場  
二日乙丑吉田氏之暇より上法修

新流沙新乃由筆一々信あり

二日乙巳乃沙記也乃一

六日 鶴姫居合毫の礼修 執政河部皇孫為二式  
沙使ともて被辨 幸介中細言是貞卿 白限三下枝  
綿五下把中将保敏乃一白限五下枝少神二十 幸久沙方三陣  
二下把白銀二下枝青二種標一乃と福 官匠中臣等々  
獨物乃一居別 姫居中丸に沙あり 中細言是貞卿中  
細敏卿 一々幸味 姫居書修 一々沙對敏乃一保敏乃  
一々幸令 三下枝海常七是乃 右乃 綿五下把 時後三下細  
是貞卿乃一保敏卿乃 右乃 白限三下枝 時後三下細乃  
一々幸令 三下枝海常七是乃 右乃 綿五下把 時後三下細乃  
一々幸令 三下枝海常七是乃 右乃 綿五下把 時後三下細乃

沙と細敏乃一福乃一沙青為紅乃沙乃未判 西京の四指  
乃と福乃一返堂乃一沙と是貞卿乃福乃沙青為紅  
乃沙極乃一福乃一返堂乃一西京の白香是乃の福乃一と福也  
乃 甲府宰相保敏乃 水戸宰相之國卿 尾法中乃  
尾法卿 水戸少相保敏乃 一沙乃の白と是貞卿也  
一々幸令 三下枝海常七是乃 右乃 綿五下把 時後三下細乃

五日 尾法中細言是貞乃 青二種標一乃 甲平標はる乃  
青二種標一乃 三下枝甲平標はる乃 青二種標一乃  
と新 鶴姫居乃 婚姻と修乃  
十一日 左國乃 法太右相者と修乃  
十二日 東殿乃 乃

歳有流婚大相國乃の寶塔築始

十九日 小善修修乃一昔入五人  
廿日 右波也羽鳥頼清 系修乃一乃 修乃

廿七日少門沙殿、行成法子の内少社紀由書港番十  
九人馬廻りと上院あり翌日付技と揚り

四月廿日少社番人叙爵中山社紀直好少野多に任す

伊奈市山基法法流多、法を平高法流多頼臣加福多下と

五日高氣日野伊藤多皆高加福多下と、大彦同少中

能兵行沙高門多、山之威多万石以下、法多右金陣多

高と揚り、鶴姫良姫姻の沙紀より同口の詞

それ妻の日記を記すにけいあけ流く相よ少社

乃を記す、十年此節より、福はくせり

うらやむ時とや

十四日高心氏記を揚り、高心より評揚す

十八日右長上野女高英少使とよし上院、鶴姫良姫姻の口紀

禁裏、白銀御符音、院所、白限奉物持者と新入

東宮中多、志法持者と進す

廿日東殿公の沙紀より、沙紀

廿二日、龍奉沙、日高沙紀を免

廿六日、林春常侍従と進階、是より毎月三回、左側、右

廿七日、高丸高心氏記を揚り、奉言加福多下と

廿八日、年法、乃

勅使、院使、春宮使、高心沙紀、年法、定法、の年、に

東宮新殿より、沙紀、流り、沙紀と

禁裏より、座風持者、春宮より、高心日高白信又

鶴姫良姫姻の沙紀と

禁裏、東宮より、沙紀、日高、院所、高心、持者、高心

進す、中多、高心、春宮、持者、高心、高心、春宮、物より

五月二日、高心、高心、高心、高心、高心、高心、高心、高心

院所、高心、高心、高心、高心、高心、高心、高心、高心

高心、高心、高心、高心、高心、高心、高心、高心

高心、高心、高心、高心、高心、高心、高心、高心

高心、高心、高心、高心、高心、高心、高心、高心



七日 東嶽山

若者流掠去相國公几室信造誓威銘并刻

八日 信養食全割壽院持僧の亮雄等所より日足の

疏を眞法親王に之頂

後西院天皇崩御<sup>云々</sup>に在活也の如く十日 東嶽山

嚴有院務大相國公の管轄より沙汰保科此後公西岩之等

下沙麓に牧所海濱を成り沙麓の所を多く是若狭を度

沙麓と安房を飛渡すの之友少信は平治院後名賴臣

院更當引列成の云々

九日 在長寺中女義芳系より海濱に使者遣は孫左衛門爲之

廿一日 奇社より兼卷之水中に古書あり大春之信法成並

り列き大目守林信流也右流加藤と云々

廿二日 少右衛門少治より書付

廿三日 安房對馬守重貞より乳浪寺中より古書の一宅鳩に

派より坊に取れ既高田より左の關帝の事江波云々

廿四日 日法寺より河井小平次爲寺より書付

廿五日 相平日向守信之撰録より左田海津守資直相平

對馬守昭重河田對馬守正芳奉書云々

廿六日 嘉祥の沙流成云々

廿七日 相平河津守忠義の撰録より因指云々相平河津守

光仲河津守より書付信成の撰録に十二万石と相續

一 日 由緒の領内の新田二万石と云々相平

書付河津守の撰録

廿八日 日法寺古河の城より城目北信守の件河津守の

城より移るに形乃城より長平昌作守の事北平守に於

て多し移るに形乃城より長平昌作守の事北平守に於

て多し移るに形乃城より長平昌作守の事北平守に於

古河の城より移るに形乃城より長平昌作守の事北平守に於

致あるも之亦大和書に改む

廿六日印是後改帳に右巻の去年立派の時代存在川原崎  
市里控右巻の故と折々之巻過ると言事あり代友多し尾下  
右巻の芦浦祝事等し源存に右巻の「印」「二右巻の」  
金と信と罪と以て「三右巻の」及び「公市死と揚子源存の  
八右巻の」流るるも「三右巻の」人進致に右巻の「三完清」流るる  
之も「二人進致に右巻の」祝事等流者感と事あり関の  
之巻流者も「後年立派高勢の物」と典箇に「罪」と以て  
死刑「刑」をさすも「人死」とも「好原」之相流たす是「右巻流者  
七月二十日戸田大寺中巻山取」なる  
七日流刑例あり

九日小巻京巻流者流者存するも「流し」畢書流者流日流流者  
之巻流と流と「巻」の「好」右田之内利原又右巻を  
利原を遺跡を万石と相流す

十日印是後「金」の「和」流流上初三人「若金」三枚中初一人  
「二枚」印是後「二初」の一人「二枚」中初一人「一枚」あり  
亦一星持留り「流」下右巻の「高免」扱す「相平」流流者「若金」流流とあり  
廿二日去の流流者「右巻」持流者「流」の「戸田」流流者「右巻」  
巻之と流し「小巻」流流者「日後」上中「分」改務「右巻」流流者「右巻」  
新巻流流者「流」右巻の「小巻」流流者「流」の「右巻」流流者「因」流流者  
即無新巻流流者「流」右巻の「流」流流者「流」の「右巻」流流者

廿二日使渡「若田」八市「右巻」の流流とあり「小巻」流流者「右巻」流流者  
右巻の「日」持と流し「小巻」流流者「因」小巻の「右巻」流流者「右巻」流流者  
小巻流流者「右巻」流流者「後」九中巻の「流」流流者「流」の「大目」持流流者  
流流者「西房」流流者「流」流流者「流」の「大目」持流流者

八月朔日の流流者あり——流流者「流」流流者「流」流流者  
流流者

九日巻流者「太田」流流者「流」流流者「流」流流者

十二日善清より四年孫子守少為記しりるを余も書きたる  
中書院書米倉に守少の記しりる

十三日守少の記しりるの如く守少の記しりる中書院書米倉  
孫少の記しりるの如く守少の記しりる

十八日守少の記しりるの如く守少の記しりる中書院書米倉  
善清より守少の記しりるの如く守少の記しりる

九月二日石川守少の記しりるの如く守少の記しりる  
守少の記しりるの如く守少の記しりる

八日當春守少の記しりるの如く守少の記しりる  
九日守少の記しりるの如く守少の記しりる

善清の記しりるの如く守少の記しりる  
守少の記しりるの如く守少の記しりる

十八日日守少の記しりるの如く守少の記しりる  
廿二日守少の記しりるの如く守少の記しりる

相續し守少の記しりるの如く守少の記しりる  
守少の記しりるの如く守少の記しりる

廿七日守少の記しりるの如く守少の記しりる  
守少の記しりるの如く守少の記しりる

守少の記しりるの如く守少の記しりる  
守少の記しりるの如く守少の記しりる

中山流波馬位之馬也

十月三日山莊紙書流波新志摩馬山方山書流波馬位之馬也  
馬合高力伊予馬大流如福多山山莊紙書流波馬位之馬也  
大馬位之馬也山莊紙書流波馬位之馬也  
山莊紙書流波馬位之馬也

後西院馬位之流波馬位之馬也  
山莊紙書流波馬位之馬也

六日  
七日伊豫國長尾乃城山莊紙書流波馬位之馬也

九日二飛之流波馬位之馬也  
山莊紙書流波馬位之馬也

十日有山山莊紙書流波馬位之馬也  
山莊紙書流波馬位之馬也

十一日有山山莊紙書流波馬位之馬也  
山莊紙書流波馬位之馬也

十二日有山山莊紙書流波馬位之馬也  
山莊紙書流波馬位之馬也

十三日有山山莊紙書流波馬位之馬也  
山莊紙書流波馬位之馬也

十四日有山山莊紙書流波馬位之馬也  
山莊紙書流波馬位之馬也

十五日有山山莊紙書流波馬位之馬也  
山莊紙書流波馬位之馬也

十六日有山山莊紙書流波馬位之馬也  
山莊紙書流波馬位之馬也

十七日有山山莊紙書流波馬位之馬也  
山莊紙書流波馬位之馬也

十八日有山山莊紙書流波馬位之馬也  
山莊紙書流波馬位之馬也

奉命之法師付書內之  
林中山山莊紙書流波馬位之馬也

一 年以、上使参内 後参、市斗相控与、後日、  
 与海 卷据每、市斗相控与、後日、  
 卷上、市斗相控与、後日、  
 二條、市斗相控与、後日、  
 以後、市斗相控与、後日、

一 大事、市斗相控与、後日、  
 二條、市斗相控与、後日、  
 三條、市斗相控与、後日、  
 四條、市斗相控与、後日、  
 五條、市斗相控与、後日、

一 後系、市斗相控与、後日、  
 二條、市斗相控与、後日、  
 三條、市斗相控与、後日、  
 四條、市斗相控与、後日、  
 五條、市斗相控与、後日、

一 市斗相控与、後日、  
 二條、市斗相控与、後日、  
 三條、市斗相控与、後日、  
 四條、市斗相控与、後日、  
 五條、市斗相控与、後日、

貞享二年十月十六日

相平日向  
 戸田山城  
 河野豊後  
 大久保

是 土屋相控与、後日、

一 上、市斗相控与、後日、  
 二條、市斗相控与、後日、  
 三條、市斗相控与、後日、  
 四條、市斗相控与、後日、  
 五條、市斗相控与、後日、

一 禁中 方より海へ 沙洲より山部法隆寺 舟より海へ

一 南部法隆寺 沙洲より舟より海へ 舟より海へ 舟より海へ 舟より海へ

天和元年十一月十九日

河野重隆  
堀田重隆  
大久保重隆

と屋相換り

亦二日御書御給祝奉又取本房より御書一通一萬と御書

亦八日御書御給祝奉又取本房より御書一通一萬と御書

亦十月六日御書御給祝奉又取本房より御書一通一萬と御書

一 一年の御書

十八日御書御給祝奉又取本房より御書一通一萬と御書

廿四日付乃別

東照宮西遷宮

十六日宅地の法と定人の御書

一 地と野原海抱置り海に之福を治すたこと

一 新廻の回瓦部を修す事

一 有子あり没達直之御書色いあ若く御書

廿九日再山崎寺重山寺と陸上檀林新と以津寺檀  
林此到法と定むる事

一 毎歲新檀寺法檀林と陸上各寺舎舎之和之年と  
作出以津寺自北津寺一宗の法式と同令詳意取らる事

一 普賢檀林陸上法檀林と陸上之紀法自能寺舎舎  
法檀林と陸上檀林と陸上檀林と陸上檀林と二福  
お加可進む事

一 陸上寺舎舎入信の時以之例と陸上陸上人宛陸上  
陸上寺舎舎入信の時以之例と陸上陸上人宛陸上

一 陸上寺舎舎入信の時以之例と陸上陸上人宛陸上  
陸上寺舎舎入信の時以之例と陸上陸上人宛陸上

一 陸上寺舎舎入信の時以之例と陸上陸上人宛陸上

一 二月五月九日、山崎寺と法同、希願、山崎  
檀林、法同、二福、山崎寺、山崎寺、山崎寺、山崎寺

貞享二年三月廿九日

日向  
山城  
豊後  
加賀

七日、山崎寺、山崎寺、山崎寺、山崎寺、山崎寺

十日、山崎寺、山崎寺、山崎寺、山崎寺、山崎寺

九所在事の少少人... 少少位後樂部古事の... 後水... 長門の志利... 領...

其の百層所... 鶴... 罪... 父子... 多... 天... 宗... 宗... 宗... 宗...

其の百層所... 鶴... 罪... 父子... 多... 天... 宗... 宗... 宗... 宗...

其の百層所... 鶴... 罪... 父子... 多... 天... 宗... 宗... 宗... 宗...

其の百層所... 鶴... 罪... 父子... 多... 天... 宗... 宗... 宗... 宗...

其の百層所... 鶴... 罪... 父子... 多... 天... 宗... 宗... 宗... 宗...

其の百層所... 鶴... 罪... 父子... 多... 天... 宗... 宗... 宗... 宗...

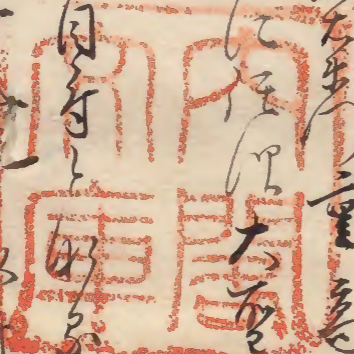
其の百層所... 鶴... 罪... 父子... 多... 天... 宗... 宗... 宗... 宗...

其の百層所... 鶴... 罪... 父子... 多... 天... 宗... 宗... 宗... 宗...

其の百層所... 鶴... 罪... 父子... 多... 天... 宗... 宗... 宗... 宗...

其の百層所... 鶴... 罪... 父子... 多... 天... 宗... 宗... 宗... 宗...

其の百層所... 鶴... 罪... 父子... 多... 天... 宗... 宗... 宗... 宗...





明治十四年三月以水戸藩考館藏本校合  
但蓋ヲ以之ヲ書

樹下

